

Cosmos

The Bulletin of the Faculty of Global Communications



同志社大学グローバル・コミュニケーション学部機関誌

No.10

2021年3月

cosmos ['kɒzmɒs]

—①よく秩序づけられた宇宙。思考体系。

②キク科の観葉植物。

……花言葉 「調和」

cosmo- ['kɒzməʊ]

—（接頭語） 世界や宇宙に関する。

私は一つの可能性です。

私たちは無限の可能性です。

限り無く広がる世界の中で

調和をもたらす存在に成らんことを願い

これを題名とします。

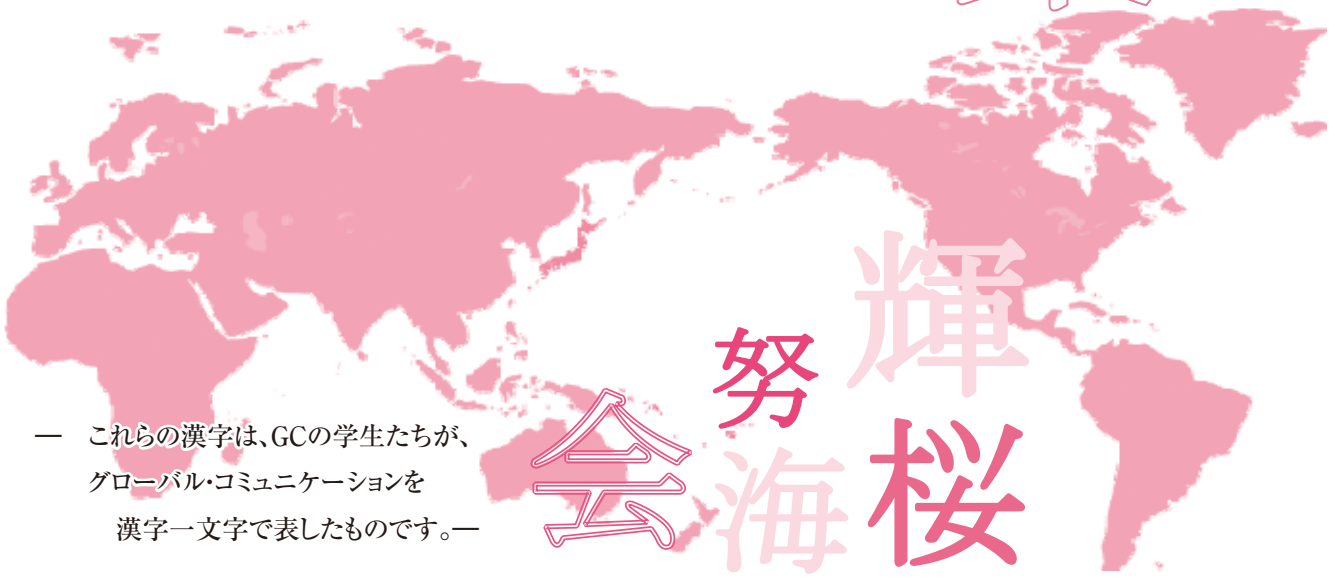
References

Oxford Dictionaries. (<http://oxforddictionaries.com/definition/cosmos>)

流飛躍美挑自較
忙界実
交新
逢
進
道
築

Cosmos

No.10



— これらの漢字は、GCの学生たちが、
グローバル・コミュニケーションを
漢字一文字で表したものです。—

会努海輝桜

はじめに

この度は、グローバル・コミュニケーション学部（以下 GC 学部と表記）発行の学部機関誌 *Cosmos* 第10号を手にとっていただき誠にありがとうございます。*Cosmos* は、グローバルコミュニケーション学部を知っていただくために、学部内の学生への情報発信を目的として学部創設以来、毎年発刊されています。

同志社大学は国際主義を教育理念に掲げ、世界の多様な社会と密接に関わってきました。その中で、GC 学部は2011年に英語コース、中国語コース、日本語コースの3つのコースから構成される学部として新設されました。同志社大学の伝統をさらに充実・発展させた、現代のグローバル化社会にふさわしい学びの場が GC 学部です。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、春学期では全てオンライン授業での実施、秋学期でもオンラインと対面授業の混合での授業体系となりました。そのため、*Cosmos* 第10号を編集するにあたって「交わり」をテーマにしました。このテーマにした理由は、私たちにとって人と人との交わりの大切さをあらためて感じた1年間だと感じたからです。今年1年は、異なる文化を尊重することの大切さや、言語や文化の違いを超えてともに生きる世界を築くことについて考えさせられました。また、自己と他者の文化についての理解を深めることの大切さをあらためて感じました。

Cosmos 編集委員12名で、学年とコースを越えて、一緒に本誌作成に携わることができたことを嬉しく思います。最後になりましたが、*Cosmos* に携わってくださった皆様、お忙しい中本当にありがとうございました。なかでも、運営・編集委員の先生方、そして協力してくださった GC 学部の方たちに心より感謝いたします。どうぞ最後までお楽しみください。

3年生英語コース 津田 愛華

表紙デザイン 降幡 千江里
内表紙デザイン 呉 宙弦

Cosmos 第10号

目次

オープンキャンパス紹介	4
FC 紹介	7
GC 学部ゼミ紹介	9
留学先での1日	18
Zoom ひろば企画	
・ 黒人差別を海の向こうの問題だと思っているすべての人へ	27
・ ひろば留学編	32
・ OG インタビュー：大学生活を有意義に過ごす方法	40
・ アフターコロナの旅行業界について	43
・ GC 学部1年生交流会	46
2020年度卒業論文テーマ	50
同志社大学グローバル・コミュニケーション学会 講演会開催記録	57

2019年、2020年 GC学部オープンキャンパス

みなさん、GC 学部のオープンキャンパスに来たことはありますか？実は GC 学部のオープンキャンパスは GC 学部の学生が主体となって行われているのです。毎年学生自ら GC 学部の授業や留学体験などについて個性が光る魅力的なプレゼンテーションを行っています。GC 学部で学ぶ学生の「生の声」を届けることをモットーに1期生から今まで引き継がれている GC 学部にとって大切な行事です。今回は2019年度のオープンキャンパスに参加した GC 学部日本語コース2年生のソンヒョンソさんと2019年度、2020年度のオープンキャンパスに参加した GC 学部中国語コース2年生の陳ヶ尾祐月じんが お ゆづきさんに感想を聞きました。

GC 学部日本語コース2年生 ソン ヒョンソ 宋 泓攄さん

2019年のオープンキャンパスではたくさんの経験をしました。私は800人という大人数の前で話すのが生まれて初めてで、しかも母語でもない日本語で10分間プレゼンテーションをするということが私に与えられた大きな挑戦でした。

これを乗り越え、オープンキャンパスを成功させられたのは先生と同級生の友達、そして先輩の応援と鋭いフィードバックがあったからだと思います。この過程でみんなとより仲良くなれました。週1回授業後に集まって、1週間用意してきたことをみんなの前で発表し、良かったこと・変える部分などの意見を交わしました。我々 GC 学部には3つの

コースが集まって行われる授業が週に1回しかないので、仲良くなれる機会が多くありません。私はこのオープンキャンパスを通して英語コースと中国語コースの友達を作ることができました。

自分のコースだけではなく、他のコースのカリキュラムを見ながら、GC 学部の学びの全体像を把握でき、自分が4年間でどのような勉強をしてどのような能力を身につけていくのかをもう一度確かめることができました。大きな挑戦だと思っていたオープンキャンパスを終わらせてから、今後どんなことでも乗り越えられるという自信ももてたと思います。

最も記憶に残るのは、オープンキャンパスが終わってから参加者の方々が書いてくださった「満足度調査」のアンケート結果です。日本語コースの学生たちの日本語が上手でしたというコメントが多くあり、期待に応えられるように、「もっと上手になりたい」という良い刺激になりました。

これらの経験は私にとって大学の4年間の中でも最も記憶に残る大事な思い出の一つになります。今年は新型コロナウイルス拡大の影響で色々な変化がありましたが、来年もしもう一度機会があったらぜひ参加したいと思います。





작년 오픈 캠퍼스에서는 많은 경험을 했습니다. 저는 800명이 넘는 청중 앞에서 태어나서 처음이었고, 심지어 모국어가 아닌 일본어로 10분간 프레젠테이션을 한다는 것이 저에게 있어서 큰 도전이었습니다.

이것을 극복하고 오픈 캠퍼스를 성공리에 마칠 수 있었던 것은 선생님과 동급생 친구들, 그리고 선배님들의 응원과 냉철한 피드백 덕분이었습니다. 그리고 이 과정에서 모두와 더 가까워지고 친해질 수 있었습니다. 주 1회 수업이 끝나고 만나서 일주일간 준비해 온 것을 모두의 앞에서 발표하고, 좋았던 부분과 개선해야 할 부분에 대해 의견을 교환했습니다. 우리 GC 학부는 3개 코스의 학생들이 모여서 행해지는 수업이 주 1회 뿐이기 때문에 친해질 기회가 사실상 많이 없습니다. 저는 이 오픈 캠퍼스를 통해 영어 코스와 중국어 코스 친구들과 어울릴 수 있었습니다.

제 코스의 커리큘럼뿐 만 아니라 다른 코스의 커리큘럼을 보면서 GC 학부 전 코스의 학습의 전체상을 파악할 수 있었고, 제가 4년간 어떤 공부를 해서 어떤 능력을 지녀야 할지 다시 한번 확인할 수 있었습니다. 큰 도전이라 생각했던 오픈 캠퍼스를 끝내고는 이후에도 어떤 일이든 다 극복할 수 있을 것만 같은 자신이 생겼습니다.

가장 인상이 깊었던 것은 오픈캠퍼스가 끝난 후 참가해주신 분들이 적어주셨던 만족도 조사의 결과였습니다. 일본어 코스 학생들의 일본어 실력이 훌륭하다라는 코멘트가 몇 개 있었고, 그 기대에 미칠 수 있도록 「더 잘하고 싶다」라는 좋은 자극제가 되었습니다.

이와 같은 경험은 저에게 있어 대학생할 4년 중에 가장 기억에 남을 소중한 추억 중 하나가 될 것입니다. 올해는 코로나19의 확산으로 다양한 경험을 할 수 없었지만, 내년에 또 기회가 있다면 꼭 참가하고 싶습니다.

GC 学部中国語コース 2 年生 じんが お ゆづき 陳ヶ尾祐月さん

私は、毎年オープンキャンパスの一環である GC 学部の学生だけで作り上げてプレゼンをする活動に参加しています。実際に、学生同士でスライドを作り上げ、オープンキャンパス当日には約1,000人もの高校生の前でプレゼンテーションをします。内容としては、GC 学部の各コースの授業内容や、留学経験、受験対策です。2020年度は、新型コロナウイルスの影響を受けオープンキャンパスが中止となったため、これまでとは形式が異なり、GC 学部のホームページで動画をアップロードさせていただきました。

オープンキャンパスというと、他大学では先生がプレゼンを行いますが、私たちは学生だけで行うため、学生からの生の意見を聞くことができ、受験勉強などについて疑問があれば、直接学生に尋ねることができる場です。魅力的ではないですか？私は高校生の時に、「聞く側」としてこのイベントに参加しました。そこで先輩方に受験勉強の方法や、推薦入試のことについて詳しく尋ねました。私にとってこの学部はすごく魅力的に感じ、私の第1志望はここだ！と確信しました。先生から教えていただく情報よりも先輩方からの情報のほうがリアルです。もしこの場に参加していなかったら、推薦入試にも合格できなかったかもしれないと思うくらい、先輩方からの情報は貴重でした。私は、大学に入って絶対にこの活動に参加して、高校生たちにこの学部の魅力を伝え、受験に関する疑問点を解消してあげたいと思い、今この活動に参加させていただいています。いわゆる「聞く側」から今では「話す側」に変わりました。この活動に参加すると、もちろん多くの時間を費やすことになります。しかしそれ以上に多くのことを学ぶことができたり、先輩方や他コースの友達とも仲良くなれたりします。今年は、動画という形で配信させていただきましたが、動画では伝えきれないこともあり、それをいかにして伝えるのか、それが今年の問題点となりました。学生同士が会える時間や場所が限られている中で、去年とは違う、新しい観点から学生一同プレゼンテーションに挑戦しました。ぜひこの機会に、GC 学部のホームページにある受験生・高校生向け特設サイトをチェックしてみてください！



担当者：高司 空、宋 泓抒

FC紹介

GCの皆さん！FCって聞いたことありますか？フットボールクラブ？違います。実はGC発の隠れたプレゼンサークルなのです！もしまだ聞いたことがなければ、この説明で皆さんはFCの全てを知ることができ、そして自分もFCに参加したい！と思ってくれるでしょう！いや僕が思わせます！

FCとは

FC (Fountain Commons) は、英語コースの1期生が立ち上げた時事問題プレゼンサークルです。GC学部の1、3、4年生を中心に、毎週水曜日の昼休みに活動しています。活動内容ですが、まず担当のプレゼンターが気になるニュースをプレゼンのテーマとして用意し、約10分間のプレゼンテーションを行います。そしてプレゼンテーションを聞いたその他のメンバーは、内容に関する質問や、プレゼンターが用意した質問に対して班にわかれてディスカッションを行い、最後に発表を行います。過去にはこの活動の他にも、1年生に対する留学相談会やハロウィンパーティーの開催なども行いました。

FCで得られるメリット

①プレゼン力

GCでは、授業内で英語のプレゼンを行う機会は多くありますが、日本語でプレゼンを行う機会はほとんどありません。私は初めてFCでプレゼンを行った時、思っていたよりも日本語でプレゼンをすることを難しく感じ、同時におもしろさを感じました。プレゼン後は、顧問の寺西先生や他のメンバーからプレゼンに対するフィードバックをもらえるので、自分が気づいていない課題や学びを得ることができます。特に就職活動では、自分自身を「プレゼン」する機会が多くあり、FCで学んだ話し方や伝え方のポイントが強く活かされたと感じています。

②ディスカッション力

プレゼンを担当する機会は1年間で1人1、2回ですが、ディスカッションは毎週行う機会があります。設定されたテーマに対し、自分の考えを仲間と共有する機会はすごく貴重です。自分の考えを相手に伝える難しさや、班で意見をまとめる苦労を当初思っていたよりも感じました。FCのディスカッションで身についた批判的思考力や質問力、ファシリテーション力は、就職活動で経験するGD (Group Discussion) やグループワークで間違いなく発揮されました。

③知識

まず、プレゼンターが用意するテーマについての知識・理解が深まります。ちなみに、サークル名の“Fountain Commons”には、「知の泉」という意味があり、名付けた1期生のこのコミュニティに対する思いが強く感じられます。私は留学中に、日本や世界のニュースを十分に知らず、ホストファミリーや現地の友達と話すときに苦労しました。FCの活動を通して、自分の知らないことを知る楽しさや、もっと知らないことを知りたいと感じる思いが強くなり、以前よりもニュースを見て考える機会が増えました。これから留学を経験する1年生、そして就職活動に挑む3年生にはぜひ様々な時事問題に触れて知見を広げて欲しいなと強く感じます。

④ GC の縦横のつながり

GC 学部の特徴として、他学部比べて学生数が少なく縦横のつながりが作りやすいという点があります。しかし、授業内で1、3年生が関わる機会はほとんどないのではないのでしょうか。私がFCをやって良かったと考える一番の理由は、FCが無ければ関わることがないかもしれない先輩・後輩・同期とFC場で交流できたということです。毎週の活動に加えて、前述の留学相談会やハロウィンパーティーなど、FCはまさにGCの縦と横のつながりを強める存在であると誇りに思っています。

FCの今後

そんなFCですが、実は現在全く活動できていません。私たちの次の代を引っ張ってってくれる後輩を見つけることができなかったこと、そして新型コロナウイルスの拡大により春学期の間、大学に行けなかったことが理由です。3年生の時にFCで活動できて、僕は本当に楽しかったと心から思っています。1期生から僕たちの代まで引き継がれてきたこのすてきなGCの文化を止めてしまうのはもったいないし、後輩の皆にも絶対にFCのすばらしさを感じてもらえると信じています。本稿を読んで、自分もFCやってみたい！と思ってくれた後輩がいれば、全力でサポートするので一度お話ししましょう！！いつでも連絡待っています！！

担当者：高司 空、降幡 千江里

GC学部 ゼミ 紹介

現在 GC 学部には、英語コースに8つのゼミがあり、中国語コースには4つのゼミ、そして日本語コースには3つのゼミがあります。このコーナーでは、それぞれの先生方のゼミについて紹介します。各ゼミの代表に教えていただいたゼミについての話をお伝えします。今後ゼミ選びをする時に、ぜひ参考にしてみてください！

- 英語コース：松木ゼミ、伊勢・玉井ゼミ、寺西ゼミ、Hearn ゼミ、竹田ゼミ、窪田ゼミ、中田ゼミ、長谷部ゼミ
- 中国語コース：内田ゼミ、郭ゼミ、中西ゼミ、唐ゼミ
- 日本語コース：脇田ゼミ、須藤ゼミ、鈴木ゼミ

の順番で紹介していきます。

質問内容

- ①ゼミの魅力を教えてください！
- ②学んでいることは何ですか？
- ③選んだ理由も教えてください
- ④ゼミで感じる GC らしさはありますか？

●英語コース

松木ゼミ



1. なんといっても穏やかな雰囲気先生が話して、みんな意見の交わすところだと思います。また、毎週本を読む課題が出るので本を読む習慣がつけられると思います。
2. 文化人類学の視点から観光学について学んでいます。秋学期は観光地における「せめぎ合い」について学びました。
3. 昨年留学中に行ったメキシコ旅行では、偏見で物事を決めず、様々なことにチャレンジすることの大切さを学びました。このような自分の考えや行動について考えるきっかけになった観光についてもっと学びたいと考えたためこのゼミを選びました。
4. 留学中に行ったそれぞれの旅行の話を聞き、その旅について文献に基づいて分析する時に感じます。

(吉岡 美咲)

伊勢・玉井ゼミ



伊勢先生



玉井先生

1. ゼミの魅力としては、映画や文学作品について取り上げて授業を進めることです。先生方にもいろいろな本を勧めていただくのであらためて本を読むことのおもしろさに気づきました！春学期の伊勢先生ではフランスのこと、宝塚のことを授業に結びつけているのでいろいろな気づきがあります。また、秋学期の玉井先生の授業では、映画などのシーンがそれぞれどのようなことを表しているのかグループディスカッションをしてみんなで意見交換することがとても楽しいです。
2. 異文化表象について学んでいます。ゼミでは、映画や文学作品を取り上げて文化などがどのように表現されているかを学んでいます。また、どうしてそのように表現されているのかという背景についてもしっかりと考えていきます。表象とはここにはないものを表すものであるので、それを学ぶことによって物事を多角的に見れるようになると思います。このような見方は、今の社会で生きるためにはとても大切なものです。
3. このゼミを選んだ理由としては、二つあります。一つ目は、担当の先生が二人いるので、二人の先生の価値観を学ぶことができると思ったからです。また、私は1年生の秋学期の preparation for Academic study で玉井先生の授業にとても興味を持ったので先生のゼミで学んでみたいと考えたので選びました。
4. ゼミでは、2年生で留学した時のことを思い出しながら授業で発言をすることが多いです。このゼミでは、みんなで留学中の様々な体験について話し合う時が本当に楽しいです。留学中に感じたこととゼミで学ぶことを重ね合わせることができるのがGCらしさだと思います。また、玉井先生の授業では英語を使うので英語で「表象」について学ぶことができます。

(津田 愛華)

寺西ゼミ



1. 学生が主体となって授業を進める点です。予習が大変な時もありますが、発表する力を伸ばすことができ、授業内容の理解も深まるので、とてもやりがいを感じています。
2. 認知言語学のメタファーについて学習しています。日常生活で無意識に使われている言葉を研究して、新たな発見をすることが興味深い点です。

3. 寺西先生と就活のお話ができることが魅力的だと感じて選んだのが本音です。実際、時には親身に、時には厳しくご指導していただき、ゼミが就活の原動力となっています。
4. ボトムアップの提案型で、学生の意見を取り入れてもらえる点です。

(大塚 淳平)

Hearn ゼミ



1. 国際的な問題や課題に関する理解を深めることができます。また、先生がアメリカ出身で授業がすべて英語なので、帰国後も生きた英語に触れ続けることができます。
2. International Political Science (国際政治学) を学んでいます。国家の役割や民主主義、共産主義、社会主義などの成り立ちやシステムについて勉強しています。

3. 留学中、仲良くなった海外の友達と国と日本との関係について考えさせられることが多々ありました。そのため、世界全体の政治についてもっと深く学びたいと感じ、このゼミを選びました。
4. 留学で実際に自分が体験したことや留学先で出会った人たちから聞いた話などをもとに卒業論文のテーマを決めている人が多く、自らの経験をもとに国際問題などを学べるところです。

(藤本 麻有果)

竹田ゼミ



1. 魅力としては縦の関係がいい意味で近い上に、竹田先生が本当に素敵な先生だということです。先輩方は皆さん優しい方が多いため、アドバイスを頂くことや助けていただくことが多いです。竹田先生は大手家電メーカーに30年間お勤めされていたこともあり、ビジネスの経験も豊富にお持ちで、得るものがとても多いゼミであると痛感しています。
2. 主にビジネスの場における異文化コミュニケーションを学んでいます。例えば、アメリカと日本では、言語やコミュニケーションスタイルの違いから問題が生じることがあります。その問題についてどのように対処するべきなのかをゼミのメンバーと討議しています。このように、ケーススタディの中で起こる問題の解決策をメンバーで考え、討議することで実際のビジネスの場で必要な論理的思考力を培うことができると思います。
3. 竹田ゼミでは、グローバル人材の素地となるものを吸収できると思ったからです。グローバル人材になるための柔軟な思考力、自分の意見を適切かつ的確に相手に伝える表現力や語彙力がこのゼミで、身につけることができると確信しました。
4. 実際に経験した留学での話を加えながら、異なる文化を持つ人とのビジネスを行う際の交渉術やマナーを学ぶことができます。

(高畑 菜摘美)

窪田ゼミ



1. 窪田先生のクセになるキャラクターと温かい指導です。窪田ゼミでは夏休みを利用して台湾へゼミ旅行に出かけるなど、先生と学生の距離が近いことも魅力の一つです。
2. 社会と言語の関わり合いをメインに日常生活の様々な事象を取り上げて議論を深めています。例えば、男女の言葉遣いの違いや、変容する言葉の意味などについて学んでいます。
3. SA 先で社会言語学に関連する授業を履修し、興味を持ったことがきっかけです！せっかくGCに入ったからには、言語についてより知見を広めたいと思いこのゼミに決めました。
4. まず、授業は全て英語で行われます！また、社会言語学について考える上でそれぞれの学生が留学を通して実際に体験したことを話し合う場面ではGCらしさを感じることができます。

(田辺 笑夏)

中田ゼミ



1. 学生が中心となって授業を作っていくところです！！
中田先生を筆頭に学生も（いい意味で（笑））ゆるい人が多いので、だからこそ意見が言いやすい雰囲気のゼミになっているのかなと思います！
2. 様々なモチベーション理論について学んでいます。例えば、数学の授業でグループワークに参加しない学生をどのようにしてやる気にさせるかというケーススタディについて、今まで習ってきたモチベーション理論をもとに解決策を考えたりします。
3. もともとどのようにすれば人をやる気にさせられるのかということに興味があったからです。留学先でも心理学を取っていたのでそれに近い内容を勉強したいという気持ちもあり、中田ゼミに決めました。
4. 毎回授業では3～4人でグループを作り、自分の経験をモチベーション理論と交えながら話し合いをするのですが、多くの人が英語学習とその動機について話してくれます。GCに入るだけあって、ほとんどの人が幼いころから語学の学習に励んでいたようです。また、話し合いも活発で、互いの意見を言い合う雰囲気なのも GC らしいかなと思います。

（重松 佐千代）

長谷部ゼミ



1. 担当の長谷部先生がおしゃべり好きでみんな仲良く笑いが絶えないアットホームな雰囲気で学べます！内容はデジタルについても学べて非常に実用的です！
2. 自然言語処理技術を用いた認知言語学研究をしています。具体的には、プログラミングやコーパスを用いて言語のデータ分析をしています！
3. もともと IT 業界、マーケティング職に興味があり、自然言語処理を通じて知識を得るのに良いゼミだと思ったからです！また単純に長谷部先生のゼミに入りたかったからです！
4. 英語を例にして認知言語学を学ぶことが多いです！また定期的に英語でプレゼンテーションがあります。時には議論も活発になって盛り上がります！

（山下 翔也）

内田ゼミ



1. やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶ。この言葉が1番ぴったりのなぜゼミだと思います。ゼミの時間は中国語コースの4つあるゼミの中でダントツに長いです。それは自分達が自主的に議論することによって長時間になっています。自分達が疑問に思ったことや社会にあふれている問題を、何が原因なのか、問題の本質は何なのか、「なぜ」をひたすら自主的に突き詰めていく。本気で中国について学びたい人にぴったりのゼミです。

ここまで聞くと気難しいゼミだと感じるかと思いますが、そうではなく、縦コンはもちろんゼミ遠足なども定期的にありますので、縦も横のつながりもあり、和気あいあいとした雰囲気ので、学部一仲の良いゼミだと自負してます！笑

2. 中国の政治経済を中心に調査テーマを設定し、報告を行います。(調査テーマ例：日中関係、台湾問題、香港問題、中国国内問題、領土問題、中国経済など)
3. 私は日本人が一般的に抱く中国人像と私の抱く中国人像が全く異なっていることに疑問を持ちました。そこに住む人たちを本当に理解するには、その地域のそれまで歩んできた歴史背景を学ぶ必要があります。その認識の違いはどこから、そしてなぜ生まれたのかを、学びたかったため日中関係や中国政治を学べる内田ゼミを選びました。
4. このゼミでは、疑問に思ったことをそのまま発言しても、誰も完全否定はしません。むしろその可能性もあるかも！とみんなでその疑問について追求する、こんなことが日常的にあります。自分たちの気がすむまでとことん議論し、さらに1人で取り組むのではなくゼミ全員で一体となって自分たちのゼミを作っていく。自由な雰囲気の中に、それぞれゼミの一員としての責任感を持っているところが、私はGCらしさを感じます。

(熊谷 理沙子)

郭ゼミ



1. 和気あいあいとした雰囲気ので発言しやすいです。また、定期的に縦コンがあるので、留学前はとても心強かったですし、現在の就職活動でも助けられています！
2. 現代中国の言語と文化
3. 私は現代中国語と文化の両方をしっかり学びたくて同志社大学に入ったので、入学時から郭先生のゼミしか眼中にありませんでした！
4. ネイティブの教授から実際の声を聞けること。

(岡田 ひろな)

中西ゼミ



1. 堅苦しくなくとても和やかな雰囲気ので、楽しみながら学ぶことができます。
2. 中国語圏のことばについて学んでいます。中国語とくくりにしても、方言や書き言葉、話し言葉などによって大きな違いがあります。
今は、それらの違いや中国語と世界の言語とのつながり等を中国語文献を通して読み解いていくことを行なっています。

3. もともと日本語のそれぞれの方言がもつ独特の雰囲気、発音の違いなどに興味があり、中国語の中にもどのような違いがあるのか知りたいと感じたからです。
4. 学生一人ひとりが個性豊かで、自分の考えをしっかりと持っているところ。

(村田 美紀)

唐ゼミ



1. とにかくアットホームな雰囲気なので、発表や発言がしやすいです。またネイティブの先生のもとで学べるのも魅力だと思います！そしてなんと言っても唐先生がとても優しいのでなんでも相談できちゃいます！ゼミ中に恋バナなんかしちゃいます！
2. 中国文学について学んでいます。文学作品についてだけでなく、その作品を通して当時の中国社会や文化についても学びます。

3. もともと本を読むことが好きで、文学に興味があったので選びました。また個人的に唐先生が好きだったので（笑）。
4. ネイティブの先生のもとで学べるのは GC らしさだと思います。また毎回のディスカッションでは、自分の意見を発言するだけでなく、発表者の発表を褒めあって互いに高め合っています。一人ひとりの距離が近い GC だからこそできることかなと思います！

(進藤 あん)

●日本語コース

脇田ゼミ



1. 脇田先生ゼミの魅力は「多くの本や論文を読む」ことです。先生は「読んで考える力」を大事にし、毎週私たちは自分の研究テーマと関連した論文や本を読まないといけません。最初は本や論文を読むことに対して反感もありましたが、今は自ら本を探して読むほど読むことが好きになりました。
2. 学んでいることは「日本語教育学」です。その中で私は「やさしい日本語」をテーマとして研究しています。
3. 脇田先生はいつも学生の意見をよく聞いてくれて、積極的に授業に反映してくれる姿が印象深く、選びました。
4. 「偏見なし」「多角的にものごとをみる」この二つがキーワードだと感じます。一つのテーマに関しても学生それぞれ違う観点から意見を提示し、先生がそれを合わせて教えてくれるというプロセスでGCらしさを感じます。

(伊 智敏)

須藤ゼミ



1. 須藤ゼミの魅力は「日本語のコミュニケーション」が学べることです。日本語の専門家になることは単に単語や文法に詳しいことではなく、適切な場面で適切な日本語を使用し、なぜそれが適切なのかわかることです。私たちは、自律的な授業の雰囲気の中で、これまで学んできた日本語を用いて、多様なコミュニケーションの場面を解説することに大きなおもしろさを感じています。
2. 授業の中で学んでいるのは、「日本語」を言語の内から、そして外から見ることです。言語の内とは、発音やイントネーションなどで、言語の外というのは、言語を用いて行われるコミュニケーションのことです。
3. 須藤ゼミを選んだ理由は、せっかく日本に留学するのなら、日本語の専門家になりたいと強く思ったからです。
4. 須藤ゼミでは、ある一つの会話を分析することが多いです。そして色々な国籍、ルーツを持っている私たちが、それぞれ多様な解釈をしていきます。お互いの観点についてのディスカッションがかさなることで学問的に成長できるところが、須藤ゼミならではのGCらしさだと思います。

(金 随玖)



1. 鈴木先生の鋭いツッコミと絶妙なヒントで私たち学生は「知っている」と思っていたことが「知っている」領域までいっていなかったことに気づきます。そこから本当の学びがスタートします。
2. 鈴木ゼミでは、たくさんの論文を読みます。読みやすい文献から専門的な研究論文まで幅広く読みます。論文を読んで、担当者による内容報告とそれをもとにしたディスカッションを中心に文献を深く読み解きます。

その過程で、リサーチの思考方法やプレゼンテーション、レジュメ作成などの技術的スキルを高めることができます。また、今年は、お茶の水女子大学の森山ゼミと合同ゼミを行いました。毎年新しい試みを取り入れられ、真面目に楽しく学べる環境です。

3. 鈴木ゼミを選んだのは、私にとって自己成長ができる場所だと思ったからです。私が特に学べたのは、自分の考えに根拠を提示することを常に意識するようになったことです。また、卒業論文で研究したい「タイの孤児院」を分析する上で、鈴木先生がご専門とされる質的研究方法が有効だと思ったからです。
4. 様々な論文を読み議論を重ねますがその際に必ずテーマの出来事に対する、自分の母国、発言者の国、日本の比較が自然と入ってきます。これは、物事について考える時に新しい視点となり興味深いことです。

(ペットヌー マイカ)

担当者：津田 愛華、尹 智敏

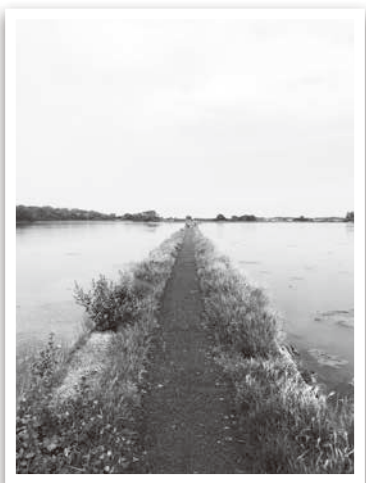
留学先での1日

イギリスでの1日



4:00 起床 & 朝食①	僕の1日は毎朝4時からスタートします。起きて1番にるのが軽いストレッチと朝食の準備です。早朝の食事はオートミールとプロテインなどの軽いもので済ませます。
5:00 勉強	そして5時から勉強の時間です！なぜこんな時間にするのかというと日中はジムの空いている時間に合わせてトレーニングを詰め込んでからです。ちなみにゲームや読書などの趣味の時間も朝早く確保してました。7時ですね、やっとジムが開きました。この時間は1人で集中してトレーニングに励んでいました。
7:00 トレーニング	早朝のトレーニングの良いところはジムの利用者数が少ないことと身体が起きることですね。
8:00 朝食②	トレーニングをするとお腹が空くんです。朝の8時にして2食目にありつきます。2食目は大体ソーセージとマッシュポテトを合わせて800gぐらい食べてました（笑）。
9:00 徒歩で登校	授業は10時ですが徒歩で40分から50分ぐらいかけて登校していたので寮を出るのは9時頃！動くのが好きなので苦になりませんでした。往復10kmほどの長い道のりでした。
10:00 授業	キャンパスに着いたら2時間の授業を受けます。イギリスでの授業は日本と比べてよく聞いて考えないとついていけないのでとても良い刺激になりました。
13:00 学校で昼食	学校で食べる昼食は大体購買で買えるサンドイッチ。特にアボカドチキンサンドイッチはお気に入りでしたね。あれはおいしかった。

15:00 間食	体重を増やすために1日4000～5000 kcal 摂取しようとしていた僕にとって間食はとても重要な存在でした。間食はお腹がすいてなくても昼食と夕食の間に食べる感じです。スムージーとかで済ませていました。
16:00 休憩	トレーニングばっかりの1日には休息も大事です。間食が終わったら昼寝の時間ですね。
17:00 夕食	トレーニング前の早めの夕食です。お気に入りの夕食はやはりステーキですね。ステーキにグリーンピースと卵を添えてガッツキます。
18:00 トレーニング	夕方のトレーニングは複数人で楽しくすることを心がけていました。時に教えながらやったり、談笑しながらやったりと楽しいひとときでした。
20:00 夜食	しっかり運動した後の栄養補給は必須！就寝前なので軽めにオートミールとプロテインで済ませてしましましょう。
21:00 就寝	明日も早起きなので早く寝て備えておきます。おやすみなさい。



英語コース 3年
辰澤耀太

アメリカでの1日



8:00 起床 & 朝食	大学の敷地内にある寮での生活なので、起きたら大学の食堂へ向かって朝食をとります。ビュッフェ形式なので好きなものを好きな分だけ食べられます。特に自分で作るパンケーキがオススメ！
9:00 授業	自分が登録している授業をうけます。現地の大学生や他の国からの留学生と共にグループワークやディスカッションを行い、意見交換や文化の違いに気づくことができる有意義な時間が過ごせます！
12:30 昼食	大学の食堂又は近くのカフェテリアなどで昼食をとります。朝に比べ食堂もにぎわっているので英語を上達させるいい機会の一つです！
13:30 授業	自分が登録している授業をうけます。昼食後の授業は少し眠たくなってくるので、より気持ちを入れて臨みます。クラスの雰囲気も活発なことが多いので眠気を吹き飛ばしてがんばります！
16:30 ジム	充実した設備の用意されているジムが大学の敷地内にあるので、体を動かして健康管理をします。ランニングマシンやバーベルはもちろん、体育館のフロアもあるのでバスケットボールやバレーボール、バドミントンなど好みのスポーツができます！



18:00 夕食	大学の食堂又は近くのカフェテリアなどで夕食をとります。また、大学から無料のバスに乗り10分くらいで着く場所にミズーラのダウンタウンがあるので、そこもよく行きます！ダウンタウンの散歩も兼ねておいしいタコスを食べに行くのが生きがいです！
20:00 勉強	学校の課題や自主学習を行います。自分の部屋や寮のラウンジ、図書館など勉強に集中できる環境がたくさんあります。図書館も5階層になっていて自習する場所もたくさんあるので、その日の気分に合わせて勉強する場所を選びます。
23:00 就寝	寮に共用のシャワールームや洗面台があるので、寝る支度をします。1日の疲れがたまってるのですぐ寝てしまいます！夢の中で英語で会話する夢が見れるくらい成長できる充実した生活をおくれます！



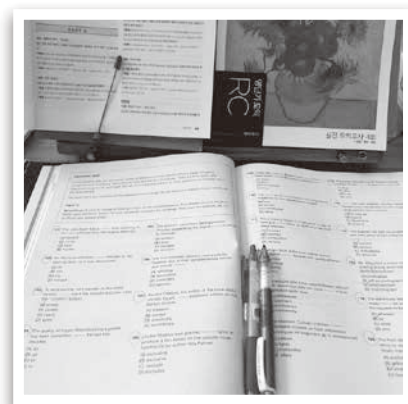
英語コース 3年
米澤勇太

日本での1日



8:00 起床	最近寒くなってきたので朝起きるのがなかなか大変ですががんばって朝起きるようにしていますー！眠気を払うため、ベッドから降りてきてお茶を入れて体を温めます。窓外に見える小鳥たちの鳴き声を聞きながら外を眺める時間が本当に好きです！
9:00 オンデマンド 講義受講	新型コロナウイルスの影響で学校に登校することもあまりなく、自宅でオンデマンド講義を受けています。学校に行って友達に会えないのは少し残念ですが、こういう生活もう1年。そろそろ慣れてきましたので、今日もがんばって講義を受けますー！
12:30 休息 & 昼食	授業後はお昼ご飯を用意しますー！もう留学も3年目になりましたので自炊するのは簡単！母国の韓国料理をパパッと作って食べちゃいます。最近寒くなっているのでよくチゲ鍋、スンドゥブなど温かいスープを作っています！なんだか食べると韓国が恋しくなりますけどね。昼食のあとは、普段読みたかった本であったり、好きな Youtuber の動画を見たりしながら午後に満喫しています。
14:00 課題	引き続きオンデマンドの講義を受け、1日の課題をやっちゃいます！その日のうちに終わらせることを念頭に置いてやっていますが、なかなか上手くいかないことも多く……（笑） 日本語で講義を受け、また日々の課題をしないといけないことでたくさん頭を使っちゃいます。かれこれ3年目ですが、いまだに自分の未熟な日本語能力に時々“また勉強しなきゃ”と思ったりして。午後のおやつも食べながらがんばってやっていきますー！
17:00 お買い物 & 散歩	息抜きを兼ねて近くのスーパーにお買い物に行きます。野菜も、フルーツも、お魚もお肉も！この時期だからバランス良く食べることを大事に、色々自分なりに工夫して食材を買います。そして期間限定のお菓子などを見つけたらどんな味なんだろうと食べるのを楽しみにしながら買ってきます（笑）私の小さな趣味です。 それから近くを軽く散歩してきます。公園で子どもたちが遊んでいる様子、日が暮れる様子などを眺めながら自分の住んでいる町を見るのがとても好きです！
18:30 夕食 & 課題	散歩が終わったら少し休んでからまた夕食の支度をします！作っておいたチゲ鍋とともに夕食にはより多くの栄養を摂りたくてサラダとお肉を用意してボリューム満点な食事を食べます。お肉とご飯とサラダとチゲ鍋は最高ー！夕食を食べ終わったら残りの課題をパパッとやっていきます！

20:00 自宅 トレーニング	それからは Youtube の動画をプロジェクターで見ながら自宅トレーニングをしますー！新型コロナウイルスで大変なこの時期だからこそ、健康な体っていうのは大事ですよー！ダイエットも兼ねて健康な習慣作りの一環としてできれば週3〜4回トレーニングするようにしています！沢山汗をかきながらやったトレーニング後のお風呂は最高ー！
22:00 勉強	お風呂上がりには課題ではなく、自分の勉強をやりまます。就職活動のためにも勉強する時間がほしいところです。TOEIC の勉強も、ビジネス日本語検定 (BJT) の勉強も、それから苦手な日本語の漢字を書く練習も日々少しずつやっています。
24:00 就寝	寝る前に少しその日の記事を読んだりして今日どんなことが起きたのかチェックします。それでは今日もたくさん充実した1日を送りましたのでこれでお休みなさいー！



週末の1日

9:40 アルバイト	歩いて40分、軽く朝の散歩をして出勤しますー！近くのお蕎麦屋さんでバイトを始めて間もないですが、アルバイトをがんばっています。日本語を使って接客をすることで自分の日本語能力を養う機会にもなりますし、色々な人と出会い、コミュニケーションができる場という点ですごくいい勉強なところだと思います！仲間と一緒にがんばった後食べる店長特製の賄いは絶品！
16:00 帰宅 & オンデマンド講義受講	また歩いて帰ってきたら少し眠くもなりますが平日に受講しそびれた講義を受けます。新型コロナウイルスの影響で学校に登校することもあまりなく、自宅でオンデマンド講義を受けています。学校に行って友達に会えないのは少し残念ですが、こういう生活もう1年。そろそろ慣れてきましたので、今日もがんばって講義を受けますー！
19:00 夕食	もう留学も3年目になりましたので自炊するのは簡単！母国の韓国料理をパパッと作って食べちゃいます。最近寒くなっているのによくチゲ鍋、スンドゥブなど温かいスープを作っています！なんだか食べると韓国が恋しくなりますけどね。夕食の後は、好きなYoutuberの動画を見ながら少し息抜きもしてますー！
20:00 オンデマンド講義 & 課題	残りの講義とその課題をパパッとやっていきます！できるだけためないようにしているのですが、なかなかうまくいかないのが現実。日本語で講義を受け、また日々の課題をしないといけないことでたくさん頭を使っちゃいます。かれこれ3年目ですが、いまだに自分の未熟な日本語能力に時々“また勉強しなきゃ”と思ったりして。それでもがんばって課題を終わらせた時の達成感というか満足感というのがすごく好きです（笑）。
22:00 勉強	お風呂上がりには課題ではなく、自分の勉強をやります。就職活動のためにも勉強する時間がほしいところです。TOEICの勉強も、ビジネス日本語検定（BJT）の勉強も、それから苦手な日本語の漢字を書く練習も日々少しずつやっていきます。
1:00 就寝	寝る前に少しその日の記事を読んだりして今日どんなことが起きたのかチェックします。 それでは今日もたくさん充実した1日を送りましたのでこれでお休みなさいー！



日本での / 京都でのおすすめの場所 !!

京都では、鴨川大橋をおすすめします！昼でも夜でも本当にきれいなんですけど、大橋の上でも散策路で見る鴨川も本当にすてきです。特に日が暮れるころ鴨川から見える京都のきれいな風景がお気に入り写真で残したくなる風景ですのでぜひ！

それから日本ですと、川越と小樽をおすすめしたいです！川越は小さな京都とも呼ばれるところだそうですが、まさにそのとおりでしたー！京都に似た感じの街並みはもちろん、目印の時の鐘、埼玉県ならではおいしい食べ物も！ぜひおすすめしたいです。

最後に、京都を離れた北海道にも、おすすめしたい場所があります。小樽です。小樽は去年の夏インターンシップで小樽にあるキロロリゾートにお世話になり、1か月間住んだ場所でもあります。冬の小樽も有名ですが、私がおすすめしたいのは夏の小樽です。小樽運河を散策したり、ずらりと並んでいる商店街で小樽ならではの各種海鮮のお料理や食べ歩きを楽しむことができます。涼しくて、また異色的な風景の中でゆったりと過ごすことができたところです。



日本語コース 3年
程 賀英

担当者：津田 愛華

Zoomひろば!

GC 学部生がリモートで交流ができる場所です。

対面で話し合う時間が減り、交流の場が少なくなった2020年、自宅からでもみんなと交流できる場を新しく作り、その内容について記事にまとめました！

- 黒人差別を海の向こうの問題だと思っているすべての人へ
- ひろば留学編
- OG インタビュー：大学生活を有意義に過ごす方法
- アフターコロナの旅行業界について
- GC 学部1年生交流会



黒人差別を海の向こうの問題だと思っているすべての人へ



「GC 学部 Zoom ひろば!」の様子

1. BLACK LIVES MATTER

恥ずかしながら私はニュースをあまり見るほうではないので、最初にこの事件について知ったのは Instagram からでした。ジョージ・フロイドさんが白人警察官に殺されたことをきっかけに、長い歴史の中でずっと苦しめられてきた黒人たちが声をあげて、たくさんの人が賛同・支持し、大きな運動へと発展しました。アリゾナでも、街でデモが起きたり、家族や友達どうしで話したりと、人々の関心の高さに驚きました。私もホストファミリーと一緒に黒人差別をテーマにした映画を見たり、普段は仲がいい家族がこの運動について話しているうちに喧嘩に発展したり、アメリカ人の友達が会話の延長でこの問題について話し合っていたりと、問題の大きさと、アメリカ人の意識の高さを肌で感じています。

今回の運動の特徴は、コロナの直後だったこともあり、Instagram をはじめとした SNS が大きな役割を果たしたことだと思います。だからなるべく家に籠っていた私もたくさんの情報を得られました。アメリカの友達はもちろん、日本の友達も含め多くの方が Black lives matter (以下 BLM) についての情報や、それぞれの考え・想いをシェアしていました。誰でも発信できるから、今までなら聞けなかった、実際に差別を受けている人たちの話もダイレクトに聞けるし、自分も発信したり拡散できる、というのは大きなメリットだと思います。そのぶん、取捨選択も必要ですが。

一方で、誰でもなんでも発信できるから、人を傷つけてしまいやすいですね。悪意のこもったコメントだって直接送ってしまう。ただ、そういう人たちだけではなくて、どちらも悪くないのに傷つけあってしまうこともあるのが見ていてつらかったです。例えば、デモを起こす人たちを見て、コロナの感染者数拡大を懸念する人が彼らを責めたり、同じ BLM を支持する動きでも、一つの動きがもう一つの動きを邪魔したりすることが起きてしまっていて。どれが正解か誰にもわからないんですが、それで本来の目的が同じ人たちがお互い傷ついていたりと、それを SNS が助長してしまったり……。

だから、思ってることをそのまま表現すればいいのではなくて、相手の立場になって考えてから発信してほしいし、でも発信すること自体はやめないでほしいなと思ってしています。SNS って縛りがないからこそすごく難しいんですが、特にこういう社会問題や差別について発信するときは、すごく慎重に、いろんな立場の人の気持ちを考えながら発信したいですね。

また、この運動を通して感じたのは、学ぶことの大切さですね。差別についてって、自分が被害者じゃなかったら全然知らずに生きていってしまうんですけど、やっぱりそれを知ることってすごく大事で、特に歴史背景は、知らないとなんで問題が起こっているのかわからないし、知ること気付くこと、考えることがたくさんあるはずですよ。せっかく情報に囲まれた時代を生きているので、閉ざさずに、耳を傾けることが大事だと思います。

BLM を通して日本の一部の人から上がった声が、「なぜコロナでアジア人差別が起きた時には誰も声を上げなかったのに、今、黒人についてはこんなに大きな問題になっているのか」。どちらも同じ人種差別なのに、と。ここからは私の考えですが、日本人が普段声を上げる、社会に対して立ち上がる、ということあまりしないということに加えて、この問題においては、差別が起こっているのがアメリカだったのに対し、差別を受けている人たちは海の向こうにいたことが大きいのではないかと思います。自分の国にいるアジア人からしたらその差別は遠いところでの出来事であり、直接の被害も少なく、声を上げても届かないと諦めてしまいやすかったのではないのでしょうか。一方で BLM はアメリカで起こったアメリカ人の問題で、他人事ではないと思った人がたくさんいて、それでこんなに広まったんですね。それを見て、「あの時何も言わなかったのになぜ今」という理由で BLM を批判するのは、筋違いではないかと思います。

世界中で数えきれないほど起こっている問題を一気に解決することは不可能で、一つひとつ考えていかないといけないと思います。今せっかく人々が立ち上がって世の中を変えようとしているのに、「自分は助けてもらえなかったから」と批判するのは、私は間違っていると思います。どっちが大事とか、どっちが優先とかではなくて、苦しんでいる人たちにすればどれも深刻な問題です。だから自分たちが声を上げなければいけないのです。アメリカってそういう文化なんです。言わなければならぬものはじまらぬ。黙っているのは中立じゃなくて、現状に味方していることになるのです。黙っているって、黙認ですよ。現状を認めてしまっているのです。文化の違いもありますが、日本もアメリカから見習わないといけない部分があるのではないのでしょうか。今できることをして、一緒に声を上げたら、きっと自分のもとにも何かのかたちで返ってくると思います。

そもそも、黒人差別って、日本でも起こっているのです。例えば、オコエ選手や大坂なおみ選手が BLM 運動を支持していたのはメディアでも取り上げられたと思います。特に、オコエ選手が本人の Twitter でつづった幼少期のいじめの話には多くの人が胸を痛めたのではないのでしょうか。彼の父親はナイジェリア人ですが、彼は日本人なんです。でも、肌の色が違う日本人って、ほんの一握りですよ。学校に数人いるかどうか。割合があまりにも少なく、肌の色の違いで苦しんでいる人が日本にいて、気付くもしない人も多いですよ。そして、そういう人たちが目の前にいるとき、自分たちは無意識に彼らを傷つけたり、呆れさせたりしているんです。

「ハーフ」と呼ばれる子たちは、どんなに「普通」の生活がしたくても、新しい出会いがあるたびに「ハーフ?」「どこの国?」と聞かれなければいけないし、オコエ選手のようなつらい経験をしてきた人もたくさんいるのです。最近は外国人労働者も増えてきていますが、彼らも私たちの

理解ない言葉に、見えないところで傷ついていると思います。日本では自分たちがマジョリティだからと安心して人種差別とは無関係だと思い込んでいる私たちが、気づかずに彼らを苦しめているのかもしれない。

だから、私たちはまず、気づかないといけないのです。BLMの問題について訴えている人たちの中でも、「関係ないと思っている日本の人たちにも気づいてほしい」という人たちが国内外にたくさんいました。「そうだね、私たちもアジア人差別の被害者だもんね。」と言っている人もいましたが、逆です。私たちは加害者でもあるんです。それに気づくこと、自分が加害者だと認めることはすごくエネルギーがいるのですが、私がそれを最近経験したので、そのときの話をさせてください。

2. 私が加害者だった話

高校のときに留学したり、帰国子女の友達が多かったり、海外発祥の文化であるダンスをしたりと、海外の文化や、海外に住んでいた人と関わる機会は多かった方だと思います。だから「普通」の日本人と「違う」人をたくさん見て、いろんな差別に少しずつ気づけて、でもそんな差別を受けている人たちの「違い」は「個性」でしかなくて、彼らがすごくかっこよくて輝いていることも知っていて。そして今、アリゾナでこの大きな問題を目の前で見て、今、差別について人生で一番考えていると思います。でも、こうして差別について敏感になって学ぼうとすればするほど、心の隅のほうでずっと引っかかっていた出来事があって……。

ニュースでよく中国産のものが良くないとか、異物混入とか、見ますよね。母はそれにすごく敏感で、買い物中などに、中国産のものは買わないほうがいいと小さいころからよく言っていました。だから私は幼心になんとなく悪いイメージを持ってしまって。母も自分も、気づかないままレイシスト（＝人種差別主義者）だったのです。さらに、私の住む地域では外国人の観光客が多くて、大きな荷物を持った中国人が道を塞いでいるだとか、話し声がうるさいとか、母だけじゃなく、そういう話をしている大人をたくさん見てきました。もちろんそれが事実なときもあるのですが、中国人全員というわけでも、中国人だけがそうだってわけでもないですよ。でも悪気ない大人たちの言葉を聞いて、私のなんとなく悪いイメージは少しずつ濃くなっていきました。

ある日、授業のディスカッションで「外国人が日本にたくさん訪れるメリットとデメリット」みたいなテーマについて話し合ったことがあって、隣の友達とディスカッションをしました。その子は中国人とのハーフだったんです。でも中国人とのハーフなんて見た目ではわからないじゃないですか。だからその瞬間、そのことを完全に忘れていました。私はその子に、デメリットのほうを主張しました。その理由として、中国人観光客のことを例に出しました。中国人うるさかったりするじゃん、と。彼女はそこで「ひどい」ってつぶやいて、ちょっと傷ついた顔をしました。そこで私はあっ、って気づいたけど、素直にすぐ謝れなくて、タイミングを見失ったまま、次の日にはお互いいつもどおり過ごしていました。でも、スーパーの食材や街中の中国人観光客、それに対する母の反応を見るたびに、自分の中でそのことが胸に刺さったままで……。

それから月日が経ち、アリゾナに留学し、そしてBLMの問題が起きました。私の知り合いに、LGBTの人がいて、その人が「マイノリティについてどう思う？」って、SNSで皆に向かって聞いていて、私はそのとき初めてこの出来事を人に話しました。するとその人は、自分が申し訳な

いと思っていると本人に言ってあげるだけで全然違うよとアドバイスしてくれました。自分がLGBTだと親に言ったとき親に「ごめんね」と一言言われて、それだけで今まで抱え込んでいた全てがどうでもよくなるくらい楽になれたから、と。

このタイミングを逃したらもう言えないと思って、私はアリゾナから日本にいる彼女にボイスメッセージを送ることにしました。自分が加害者と認めるには想像を絶するエネルギーが必要で、深夜に30分くらいスマホとにらめっこしたあげく、約7分、泣きながらのボイスメッセージを送りました。結果、彼女はその話を覚えていませんでした。でもそれは、どうでもよかったからではなく、『あー、またか』って思ったからなんだよ』と言われて。彼女は日本で育った中で、私みたいに中国のことを何気なく悪く言う人の言葉を散々聞いてきたのです。その悪気なく言った言葉が、毎回毎回、彼女には刺さっていて、忘れるしかなくて、自分も彼女を苦しめたうちの一人で。でも彼女は怒るのではなくて、ありがとうって、次そういう会話があったら、その人のためになることを教えられるようにするねと、言ってくれたんです。自分ではなくて相手のことを考えてあげられるくらい彼女には余裕があって、それがすごくショックで、もう絶対二度と差別で人を傷つけないと心の底から思いました。

それから1週間後、リーダーシップ育成のワークショップに参加する機会がありました。オンラインだったため、いろいろな国からの参加者がいました。その中で“Hear my story”というアクティビティがあり、そこでこの話をしました。その中に中国人の子もいて、その子は私の話を聞いて、なぜ中国産のものが低価格で低品質なのか、その背景を淡々と、優しく話してくれました。中国には貧しい地域も多くて、そこに住んでいる人たちにとっては、そういった商品の工場が収入源なのです。私たちが当たり前のように受けている教育も十分に受けられない環境で育った人たちが生きるために作ったものが、いいように安く買われて日本で売られているのを見て、私たちはその品質を批判しているんです。それなのに、その話をしてくれた子や、聞いてくれていた人たちは、私たちも日本の高品質なものが大好きだよと日本のこと褒めてくれたんです。今まで差別していた自分がすごく惨めで醜く感じました。



2020 TRUE LEADERSHIP CONFERENCE で“Hear my story”をシェアしたチームのメンバー

アメリカでみたBLMの問題や、自分が加害者だった経験を通して、差別がいかに愚かなことがあらためて感じました。全ての差別について完璧に知ることは不可能ですが、それでも少なくともここグローバル・コミュニケーション学部では、知ろうとする義務があると思います。そして何より、声を上げることの大切さを痛感しました。自分が加害者で悪かったと思っているなら伝えてあげてほしいし、自分が被害者だったり、被害者に気づいたりしたら、今こんなことが起きているんだよと発信しないといけないのです。伝える相手がたった一人だったとしても、届けば何か変わるかもしれない。たった一人の意見を変えるだけでも、すごく意味があることなのです。とんでもなく大きな問題なのに、こうやって一人ひとりが少しずつ努力しないと解決しないのです。まず知って、学ぼうとすることがスタートラインだと思います。耳と心をオープンにして、拒まずに聞いてみてほしいです。感じたことはシェアしてほしいですが、そのときは誰かを傷つけないように気をつけながら。ここ1か月ほどでここまで考えさせられるって、やっぱり留学で学べることって果てしないですね。

担当者：降幡 千江里

ひろば！留学編

～ Why do we need to study abroad?
What should we learn through this? ～

司会：玉井史絵先生（英語コース）

ディスカッションメンバー：



小杉そら
イギリス(英)
サウサンプトン大学
対面授業で留学継続予定



佐竹勇樹
オーストラリア(豪)
ディーキン大学
オンライン授業で留学
継続予定



高司空
カナダ(加)
ゲルフ大学
休学中、来年再度2年生
として留学予定



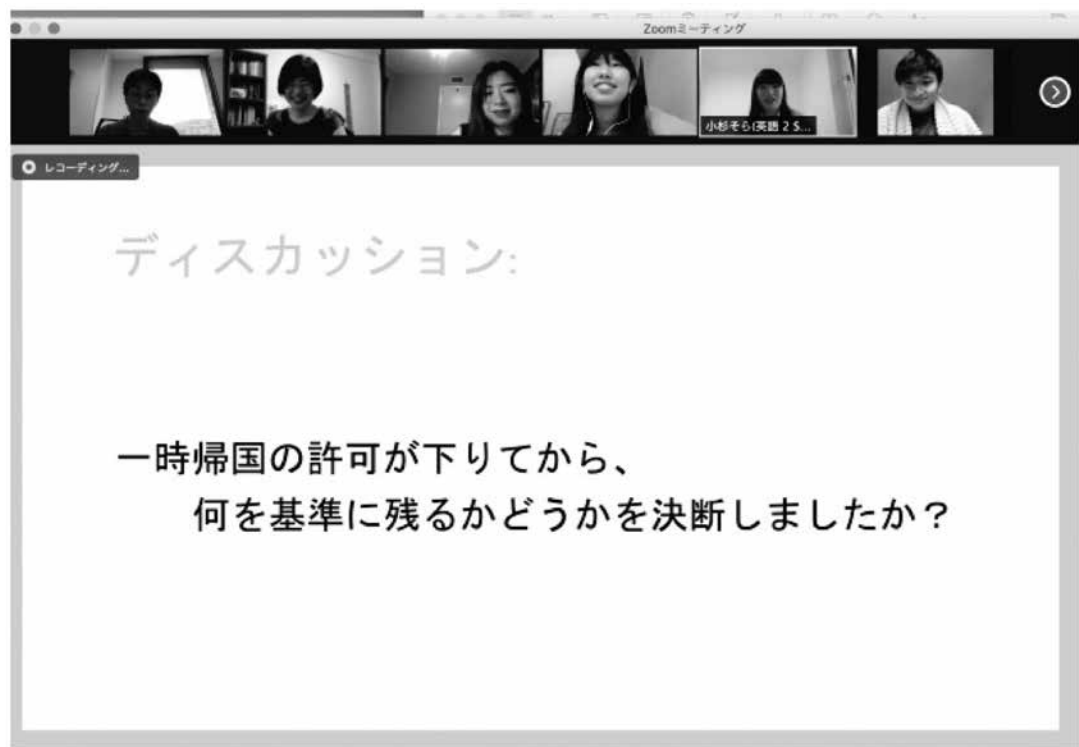
降幡千江里
アメリカ(米)
アリゾナ州立大学
一時帰国、3年秋に再留学予定



松下光太郎
ニュージーランド(新)
ヴィクトリア大学ウェリントン
対面授業で留学継続予定

玉井先生：本日は小杉さん、佐竹さん、高司さん、降幡さん、そして松下くんの2年生5人を中心にディスカッションを始めたいと思います。まず最初の質問ですが、

Q.1 一時帰国の許可が下りてから、何を基準に残るかどうかを決断しましたか？



ということで、私たちのほうでは3月21日に帰国許可を出してその数日後に帰国指示を出しました。各国の感染状況が非常に厳しくなっていく状況の中で、皆さんはいろいろ難しい決断をしたと思います。既に帰国した方、これから帰国する方、また最後まで残留する方と様々ですが、何を基準に決めたのか、またその時期などについてお話いただければと思います。

降幡（米）：私はアリゾナに留学中なんですけど、今週の日曜日（7/19）に帰国することにしました。その後、2年生の秋と3年生の春は同志社の授業を受けて、3年生の秋に残り半年分留学しなোস予定。最初は日本よりもロックダウンなどが早く始まったので、アリゾナにとどまったほうが安全だし、どちらにいても何もできないんだったら、授業がオンラインでもホストファミリーなどと英語をしゃべれるほうが勉強になるかと思って残ることにしました。でもその後状況が変わり、アリゾナは現在感染率が世界でもトップレベルで、一方日本はだいぶマシになってきたということで、いったん日本に帰って自由にできることをして、来年もう一度もうちょっと自由な状況で留学できたらいいな、と思って決めました。

高司（加）：私は4月の最初にカナダのゲルフから帰ってきました。最初帰国許可が出たときほどまろうと思ってたんですが、帰国指示が出てちょっとしてから、Guelph大学のほうで7月

末までオンライン授業になると決まりました。その段階で、1年留学するうちの半分がオンライン授業になって、ほぼ外にも出られず、家に籠って他の人と関わる機会が減ってしまうのがもったいないなと思いました。私にとって大きな留学の目的の一つが英語力を上げることだったので、語学学校にすごく力を入れている Guelph 大学を選んだことも含めて、いったん帰ってきて1年休学し、また来年行くことに決めました。

小杉（英）：私はまだサウサンプトンにいます。7月の頭からロックダウンの制限をかなり緩和しているので、これから感染者数が伸びないか心配ですけど、とりあえず今感染者数は鈍化してきています。私の大学は秋からは対面授業になっていて、それが他の皆と違ってまだ残っている理由としては大きいのかなって思います。もちろん帰っている人もたくさんいて、今後のプランや帰る時のリスクも検討したけど、結論はやっぱりどちらが楽しいかで決めました。寮なのでもちろんしゃべる人とかも全然いないんですけど、私としては、朝起きて、カーテンを開けて、窓からイギリスの景色が見えるだけでそれだけで充分嬉しいし、空が真っ黒で曇っていてもそれはそれでイギリスっぽくてなんとなく嬉しいし、晴れたらもちろん嬉しいし、木がガンガン揺れてて風強いなって日でもそれもイギリスで楽しいんで、そういう何をとっても、ささいなところからイギリスを少しでも感じていたいなっていう理由でまだ残ってます。

佐竹（豪）：僕はオーストラリアのDeakin大学に留学してます。2月の最初のほうに出発して、行ったときは全然大丈夫だったけど、3月入ったくらいにだんだんコロナが増えてきてロックダウンになって、僕らはその時にけっこうメンタルやられました。帰るか帰らないかの選択をめちゃ迫られて、だけど皆残るって決断をしました。1人帰ってたら何人か帰ってたと思うんですけど、皆残るって言ったんで。あとけっこうロックダウンしてから感染者数の減少が早くて、結局オンラインになってしまったものの、決断した当時は対面授業の可能性があったので。（帰国）許可が下りる前が一番しんどかったんですけど、許可が下りてからも残ろうってことになって、先週からアカデミックの授業が始まっています。メルボルンはまたロックダウンになってしまったんですけど、Newcastle 大学はほとんどの授業が対面になるそうなので、（1年生に向けて）オーストラリア、諦めないでください（笑）。次は、一番楽しんでる光太郎くんに（笑）。

松下（新）：3月にニュージーランドに来て1週間ちょっとでロックダウンが始まって、語学学校的时候は9割くらい家で過ごしていました。けど6月の中旬くらいからロックダウンが解除されて、1日の新たな感染者数が今もずっとゼロで、対面授業が始まってからもずっとそのまま受けられている状態です。今週の月曜日からアカデミックが始まってそれもほとんど対面なので、運良く今なんの制限もなく普通の生活を送れています。

佐竹（豪）：ほんまセコいでそれは。

降幡（米）：周りの恨みを買いながらね（笑）。

玉井先生：光太郎くんがあまりしゃべりすぎると周りが悔しくなってくるかもしれないですね（笑）。それでは次のトピックに移りましょうかね。

Q.2 この状況での留学から何を学びましたか？

松下（新）：現地に着いてから3か月間ずっとロックダウンで、語学学校も1、2週間しか行けてなかったんで友達がずっといなくて。それでどうしようってなって、しゃべる機会が全然ないなと思って、Facebook でグループを見つけて入って。たまたまそれが大学のクラブだったんですけどその時は知らなくて。2つのグループに入って、Zoom に参加して、そこでロックダウン中やったけど友達ができました。

ロックダウン中に何を学んだかっていわれたら、自分から行動していく力。カッコ良く言ったら。もうこれに尽きます、僕は。ロックダウンのときって皆受け身じゃないですか。どうしよう、何しよう、何もチョイスがない、みたいな。じゃあもう作っていきこうって。高校の時に、1人フランス人の留学生がいて、全然仲良くなかったんですけど、電話したらええんちゃうかなって思って。相手は日本語を学びたい、僕は英語を学びたい。じゃあもう電話しようと思って Instagram でいきなり DM を送ったら仲良くなったんですよ。語学学校の友達と別の Zoom とかも自分から誘ってしていました。少ない機会を自分から無理やり作っていくっていう力はめっちゃつきました。

小杉（英）：今光太郎が言ってくれたように機会を作れるってことは、逆に日本にいてもやれることがたくさんあったなっていうのもまた学びで。自分で行動すれば、ロックダウン中に家の中でできたことって、結局日本でもできたことなんですよ。それを先にやっておいたら今もっと別のこともできたのかなって思いました。私はロックダウン入る前にフランス人やイタリア人の子と連絡先を交換して、ネット上でフランス語教えてもらったり、英語で会話したりしてて、そういうのもやろうと思えば日本でもどうにかできたなとも思いました。

もうひとつは、自分が日本にいたときにいかに他国に目を向けていなかったかもロックダウン中だからこそ余計学べたかなって。今はさっき佐竹くんがヴィクトリア州の話とかをしたのもニュースでチェックしたりしているから、「あー、たしかにそうだったな。」とか、そういうのもすぐにわかるし、もちろんアメリカもカナダも日本もチェックしてるし、余計世界に目を向けるようになったっていうのは学びかなと思います。

高司（加）：私はまず授業の形態がオンラインに変わって、学校に行っているのと変わらないような授業はオンラインでも提供できるっていうのを、身をもって感じて。ただそうやってオンラインの状況で皆とこうして Zoom で会えたり、授業も受けられたりするけど、それでも対面で会ったり授業受けたりするのがいいなって感じてるから、オンライン上と実際に会う時のコミュニケーションの違いを学びました。

あとは、自分で何か大きな決断をする力とか、今じゃなくて何年後か先のことを予想することの大切さも学びました。帰国を決断する時、本来なら4年で卒業のところを5年間大学に通うことになるので、4年で卒業した人と5年間いた人だったらどっちを企業は取るかな、とか就活面も考えたし、それでも留学に行きたい、1年間対面で授業を受けてカナダで勉強したいって思ったんで帰ってきて、そういう先を見越すことの大切さを学びました。

あとは1年生の授業でも習った、ローカルなことがグローバルに影響するし、グローバルなことがローカルに影響するって話も、授業の中では聞いてたし、イメージできてたけど、実際に起こるとどうなるのかっていうのを、身をもって体験しました。カナダに行く前や着いた時はコロナって日本とか中国とかアジアだけの話やったはずなのに、世界全体に広まって、

自分の行ったカナダにも、自分の留学にも影響していったってどんどん影響の範囲が広がってくるし、今回はその力が強かったなって感じました。

佐竹（豪）：僕は海外から日本を見られるっていうことが一番大きかったかなって思っています。日本とオーストラリアでコロナに対する政策も全然違いましたし、オーストラリア厳しいなと日本を見ていたら思いました。それがいいか悪いかは後にならないとわからないですけど。あと世界が見られたっていうのは大きいですね。ニュース毎日見るようになりましたし、トランプ大統領がクレイジーやなってしゃべったりもしましたし。なあ、千江里？（笑）

降幡（米）：そうですね、クレイジーですね（笑）。

佐竹（豪）：アメリカを選んだのをちょっと後悔しながらね（笑）。アメリカどうやった？ けっこう楽しかった？

降幡（米）：アメリカは、少なくともアリゾナはゆるゆるというか、マスクの着用も周りは言うけど政策にはなかなかなくて、アメリカ人は自己主張激しいんで（笑）、完全にロックダウン派と早く街を開ける派の2つにわかれちゃって、政治家はその狭間で揺れ続けてちゃんとできなくて、今こんなに感染者数が増えてしまっているって感じですね。

玉井先生：いろいろ本当につらい決断があり、また、様々なつらい経験もあり、それでも多くのことを学んだ留学だと思うんですけども、

Q.3 留学にとって何が大切だと思いますか？何をもって留学といえますか？

降幡（米）：何が大切かっていうと、ポジティブに、とかオープンでいるとか、チャンスをできるだけつかむのもすごく大事なかって思ってた。オンラインは特に、チーティングとか、手を抜くこともできるし、引き籠っていないといけないこの状況で、自分から行動しないと何もしない状況に陥っちゃうんですよ。でもその中でどれだけ、チャンスがあるならやってみようとか、自分から見つけていこうとか、見つけれなくても最低限入ってきた情報には敏感になろうとか、もっと周りを見ようとか、そう思えるかがすごく大事やなって感じて。GC 学部の先輩とお話ししていてすごく印象的だったのが、「変えられるものと変えられないものがある」という言葉で。今回に関しては変えられないものはコロナですよ。どうしても覆せないし、ロックダウンになってしまったらもうその期間はやりたいことが何も思いどおりにできないし。もちろんその中で、自分の芯は持っておかないといけないんですよ。「これをするために留学しに来た」というのを最優先するのはすごく大事なことです。でも、思い描いていた留学と違うからって落ち込んでたら何も変わらなくて。じゃあそこで変えられるものは何かって言ったら、「プラン B に行こう」とって、そこでできることを最大限にする。今回私が自粛期間でやったこと、想像もしてなかったようなことばかりだったんですけど、基本うまくいったし、得るものがたくさんありました。留学で得られるもので一番自分の財産になるものって、得ようと思ってなかったものを得られたときだと思うんですよ。これをがんばるって留学に行って、それを得ても、それは日本にいた時から考えてたことで、日本でもがんばったらできたことが多いと思うんです。でも、留学に行って価値観を変えられて、

そこで行動してなにか得たら、それって留学でしか得られないものだと思うんです。そういうのをすごく得られたなって実感しているので、そういうことを自分ができるようになって思う大学を選んでほしいし、その留学先でつまずいた時に、そういうふうにシフトできるような考え方を持ってほしいなと思いますね。

玉井先生：さっきからずっとうなずいてたけどどうかな、勇樹くんは。

佐竹（豪）：いやこんな賢いこと言うんや、千江里って思いながら聞いてたんですけど（笑）、ホンマにそのとおりだと思います。で、自分で行動する力っていうのはもちろん大切やし、光太郎もさっき言ってましたけど、自分で動かないと何もしてくれないのは日本とちょっとまた違うところかなって思います。誰も助けてくれないですから。自分で交渉したりするのが大事ですよ。

小杉（英）：私はとりあえず「百聞は一見に如かず」というのが一番かなって思って。やっぱり頭とかじゃなくて、心とか肌で感じて学ぶことが大切で、それができるところこそが留学かなって思います。今はオンライン留学とかもあって、日本にいてもイギリスの大学に留学できるけど、私は大学に留学してるっていうよりはイギリスに留学してるんで。勉強とかも大事ですけど、ここで肌で何を感じられるのかっていうのを一番大切にしていって。頭で学べることって、日本でできることばかりで。今の時代インターネットを開けば何でもできるし、英語だって日本で充分学べるし。でも感じることは現地に来ないとできないし。例えば、イギリスは雨が多いって言われて、本当にそうなのかとか、事実だけじゃなくて、どんなふうに雨が降っているのかとか、どんなふうに風が吹くのかとか、そういう行ってみて初めてわかることを肌で感じて心で感じて、学ぶことっていうのが留学の大切なことかなと思います。

玉井先生：そうだねー。確かにイギリスの雨とかね、天気とか、やっぱりないとわからないことって本当にいっぱいあるよね。では光太郎くんどうですか。この中では一番かぶれたって話ですが（笑）。

松下（新）：別にかぶれてないんですけど（笑）。個人的には、英語をとにかく伸ばすのが、なんだかんだやっぱり一番大切なんじゃないかなと。異論はいっぱいあると思うんですよ。そんな英会話教室でもできるやん、とか。けど、一番大切なのは正直やっぱり英語を伸ばすこと。あと、めっちゃお金もかかってるし、まだ何かわからないですけど、大学2年生の時に行って良かったなって将来思えるような1年にしないといけないんじゃないかと。それが留学なんじゃないかと思います。

玉井先生：じゃあ帰ってきたときの光太郎くんの英語力に超期待してるからね（笑）。

松下（新）：ちょっと、そういうのホンマに良くないです（笑）。

玉井先生：楽しみにしてます、はい（笑）。

高司（加）：私は他の4人と違って日本に帰ってきたんですけど、皆の話聞いてたら自分も4人と気持ちは一緒やったなと思って。何が大事って、さっきそちゃんが言っていたみたいに、大

学に行くだけが目的じゃないとか、実際に肌でなんでも感じて、そこからしか学べないことを学びたいっていうのが一番大きかったの。ただコロナの影響でその機会が大幅に減ったかなって思って。ほぼ家にいる状態ってなれば、ホストファミリーと会話するのが限界で、オンライン授業で先生の話聞いて、グループワークでちょっと会話するくらいの感じになるかなって。最初カナダに着いてから1週間くらいは普通に授業を受けて、普通の生活だったんですよ。そのたった1週間でも語学学校の他の留学生と話す機会が多かったり、ホストファミリーと一緒にいった教会で地域の人と話したりっていろんな関わりがあって、その機会がコロナで大幅に減るなって。で、その状況がどうやら1、2か月の話ではなさそうで、どうせ行くならやっぱりたくさん機会やチャンスがある方がいいなって思ったのが帰る理由だったので、残ってる人とは状況が真反対だけど、皆留学がどんなものかとか、目的はほぼ変わらないのかなと思いました。私は来年また2年生として行くので、1年生の時から一緒にいた皆と卒業できないのもつらいし、せっかく皆と会えたのにもったいないなってすごく思ったけど、自分の留学やって思って帰って休学することに決めました。

山口先輩(米・4年生) : 私からもよろしいでしょうか。今日4年生は私1人だけなので、2年生へのメッセージを。私は California 大学の Davis 校に留学してまして、その間にカリフォルニアで山火事が起こって、2週間休校になったことがありました。実際その時私も皆さんと同じような経験をしたので、すごく共感できました。今はすごく長期的で、本当に先がわからないので、後輩たちはさらに大変だと思います。

私が言いたかったのは、これから3年生、4年生に上がっていくうえで、そのようなことはまだまだ起こるということです。私は無事就職活動を終えたんですけども、すごく苦しんでいる同期が今でもいます。やはり GC 学部は航空や旅行業を志望する人も多いので、採用が打ち止めになったりもしてて。そこで私は今を全力で生きる大切さっていうのを知りました。皆さんやっぱり将来のことを考えると思うんですよね。30歳のときにどうなっていたいか、40歳のときにはいくら稼ぎたいとか。でも私はそれはむだだと思っていて。それだけで悩むと思うんですよね、どうやったらそうなれるかとか。それなら今本当に皆さんがやりたいこと、例えば高司さんみたいに休学するとか、松下くんみたいに Facebook のコミュニティに参加するなどの目の前でできることをするとか、そうやって今の全力を繋いでいって未来を創るのが一番だと、今4年生なりに感じました。

玉井先生 : ありがとうございます。本当に大事な言葉だと思います。私も教員として他の先生ともいろいろ話し合いをする中で何が皆さんにとって一番いいのかなっていろいろ考えながら、でも担当の学生たちなんかを見ると、離れてても日々皆さんが成長しているのをすごく感じたんですね。それはすごく私たち教員も本当に励まされることでした。

窪田先生 : 降幡さんの後輩へのメッセージ、「変えられるものと変えられないものがある」って、まさしくそうですね。そういう制約のなかで何ができるかを考えて。私いつも、今の状況っていうのは、考えようによってはすごい教材やと思うのね。昔の伝統的なコミュニケーションは二度と戻ってこないから。前に進むしかないわけで、その進まざるを得なくなった状況で今学んでいるってことだから、この経験は将来のグローバルコミュニケーションを創っていく上ですごく役に立つと思います。変えられないことはどうしようもないわけだから、今の状況のポジティブなところを見て、学びを続けていってほしいなと思いますね。

降幡（米）：そうですね。芯を持っているのは大事なんですけど、それと同時に切り替えの大切さをすごく感じました。

富田（加・2年生）：僕からも一言いいですか。僕すごくポジティブで、この形で留学できるのってこのチャンスしかないと思ってて。こういう経験なかなかできないんですか？今ここで生きているのはいい経験だと思います。

玉井先生：そのポジティブな考え方は本当にすばらしいです。そらちゃんの「窓を開けてもイギリス」っていうのもすごくそうだよなって思っ。ここにいるっていうことに変わりがあるわけではないので、その視点も大事かなって思います。確かにこうやってリモートでなんでもできるけれども、やっぱりそこにいるっていう経験はそこにいないとできないっていう、この2つの組み合わせかなって思うね。

ディスカッションメンバーからこれから留学する方々へのメッセージ

“On ne voit bien qu'avec le cœur. L'essentiel est invisible pour les yeux.”

-Antoine de Saint-Exupéry, Le Petit Prince より

大切な何かを心で見つけられる留学になることを願っています。（小杉）

今回ディスカッションに参加させていただいてありがとうございました。他の国に留学している人たちのさまざまな心境など詳しく聞くことができ自分にとっても興味深い会になりました。またこのような会があればぜひ参加したいなと思います。これから留学する1年生の方々へ、とりあえずやりたいことがあればやってみてください。あとは Take it easy でがんばってください！（佐竹）

留学先にはたくさんのチャンスがあると思います。そのチャンスをどう活かすのか、どんな留学にするのかは本当に自分しだいです。みなさんの留学がすばらしいものになることを願っています。（高司）

期待と不安が半分半分の留学、このご時世ならどんどん不安が積もりますよね。でも、あなたなりに全力でがんばって、全力で楽しんだら大丈夫。得るものは必ずあります。人生楽しんだもん勝ち、勝ち取ってください！！（降幡）

目標を持って留学に行ってください。そして形は人それぞれだと思いますが後悔しないような1年にしてください。留学に行けることは当たり前ではありません。しっかり勉強して、遊んで、挑戦して良い1年にしてください！（松下）

担当者：降幡 千江里

OG インタビュー：大学生生活を有意義に過ごす方法

졸업생 인터뷰 : 대학생生活を 의미있게 보내는 방법

2020年9月26日、「Zoom ひろば！」で英語コースのOGの方が学生時代の過ごし方や社会人生活についてお話をしてくださいました。来年、私は3年生になるので就職活動をする前に、先輩からの助言を参考にしながら大学生活の中で必要なことを準備していきたいと思って「Zoom ひろば！」に参加しました。

.....

2020년 9월 26일, 「Zoom 히로바!」에서 영어 코스 OB 선배가 대학과 회사에서의 생활에 대해서 여러 이야기를 들려주셨습니다. 내년에 저는 3학년이 되기 때문에 취업 활동을 하기 전, 선배의 조언을 참고하여 앞으로 대학 다니는 동안 필요한 것을 준비해가고자 「Zoom 히로바!」에 참가하게 되었습니다.



2019年度英語コース卒業・板垣夕音（いたがき・しおん）さんのお話

私が大学に通っていた時に大事にしたことは、4年間の目標を立てることだった。目標をしっかり決めれば、もっと意味のある時間が過ごせる。たとえその目標が他人にとってむだなことでも、自分にとって価値あるものであればそれはもうむだなことではない。どんなにささいな目標であっても、達成することが大事である。

.....

대학 시절 중요시 여긴 것은 4년간의 목표를 세우는 것이었다. 목표를 제대로 정하면 더 의미 있는 시간을 보낼 수 있다. 아무리 그 목표가 남들에게 쓸모 없는 것이라고 해도 자신에게 있어 가치 있는 것이라면 그것은 더이상 쓸모 없는 것이 아니다. 아무리 사소한 목표를 세운다고 해도 달성하는 것이 중요하다.

GC 学部の英語コースと中国語コースの全学生は、各言語圏の大学において1年間の留学をするが、私はニュージーランドへ留学に行った。そのときに大事にしたことが三つある。それは「探索」「先生役探し」「振り返り」であった。私は海外生活中、引きこもってしまわないように SNS から様々な情報を得て周辺を探索に出かけた。その時、言語や文化の勉強につながる先生役の友達も探せた。彼らとの交流のおかげで私は効率よく早めにその国を知ることができた。さらに、自己管理の一環としてよく日記を書いて日々の振り返りを行った。そこには勉強だけでなく運動や外出記録なども書き、日常を振り返ることにもつとめた。私は「探索」「先生役探し」「振り返り」、この三つを大事にして留学中の限られた時間を有効に使えたと思う。

.....

GC 학부 영어 코스와 중국어 코스 학생들은 각각의 언어권의 대학에 1년간 유학을 하는데, 유학 중에도 중요시 여긴 것이 세가지 있었다. 그것은 「탐색」「멘토 찾기」「성찰」이었다. 해외 생활 중에 혼자 틀어박혀 있지 않도록 SNS 를 통해 많은 정보를 얻어 주변을 탐색하러 밖에 자주 나가곤 했다. 그 때 언어나 문화 공부로 이어지는 멘토 친구도 찾을 수 있었다. 그들과의 교류덕에 효율적으로 빠르게 그 나라를 알 수 있었다. 그리고 자기관리의 일환으로 일기를 써서 성찰을 했다. 거기엔 공부뿐만 아니라 운동이나 외출기록 등도 적어서 일상을 성찰했다. 「탐색」「멘토 찾기」「성찰」, 이 세가지를 중요시 여겨서 유학 시절 시간을 유용하게 잘 쓸 수 있었다.

その後、3年生から就職活動を開始し、卒業後、現在の会社に入社した。そこで私が学生時代の時に取り組んだアルバイトの経験がとても役立った。アルバイトでは、仲間の働き方を肩越しによく観察して、良いと思ったことはどんどんまねをした。このように効率よく仕事を学ぶ方法を知っていたので、新人であってもバイト中の作業量もどんどん少なくなった。この経験を社会人になってからも応用し、入社後すぐに仕事を習得することができた。

.....

그 후, 3학년부터 취업활동을 하기 시작하고 대학 졸업 후에 지금의 회사에 입사했다. 그곳에서 학생 시절 했던 아르바이트 경험이 굉장히 도움되었다. 아르바이트 동료의 일하는 방식을 관찰하고 좋다고 생각한 점을 계속해서 따라했다. 이렇게 효율적으로 일을 배우는 방법을 알았기

때문에 신입인데도 불구하고 일의 작업량도 점점 줄었다. 이 경험을 사회인이 되어서도 응용하여 입사후에 빠르게 일을 배울 수 있었다.

お話を聞いた感想

このように「Zoom ひろば!」を通じて、先輩から大学の話はもちろん、社会人になってからのお話も聞かせてもらいました。質疑応答の時間帯には様々な質問をしましたが、中でも印象に残ったことが一つあります。会社で働くときに大変なところを仕事に“キリがない”ことだと言いましたが、逆に“キリがある”仕事の場合は、自分が成長できる機会が少ないのではないかと仰いました。キリがない仕事に耐えていることだけでも、成長している証拠ではないだろうかと私は思いました。私も春学期にオープンキャンパスの仕事と課題に追われ、「キリがない」と感じたことがあります。しかし一つずつ済ませて何とか全て完了させました。その結果、オープンキャンパスも成功し、成績もすばらしいものでした。私はこの春学期の間はとても大変でしたが、その時期があったこそその結果だと思います。今後、私が大学を卒業して社会に出たとき、私も先輩のように「キリがない」くらいの仕事をこなしながら自分が成長できる会社で働きたいと思っています。

.....

이렇게 「Zoom ひろば!」 を 통해 선배로부터 대학 시절 이야기는 물론, 사회인이 되고나서의 이야기도 들을 수 있었습니다. 질의응답 시간에는 여러가지 질문을 했습니다만, 그 중에서도 인상이 강하게 남은 답변이 한가지 있습니다. 회사에서 일할 때 힘든 점을 일에 “끝이 없다” 는 것이지만, 반대로 “끝이 있는” 일의 경우에는 자신이 성장할 수 있는 기회가 적다는 것이 아닐까 라고 말씀하셨습니다. 끝이 없는 일에 버티고 있는 것만으로도 성장하고 있다는 증거라고 생각합니다. 저도 봄학기 때 오픈 캠퍼스 일과 과제에 쫓겨, “끝이 없다” 고 느낀 적이 있습니다. 하지만 하나씩 과제를 끝내고 전부 잘 완성시켰습니다. 그 결과, 오픈 캠퍼스도 잘 끝났고, 성적도 좋은 성적을 거두었습니다. 봄학기동안 굉장히 힘들었지만, 그 시기가 있었기에 지금의 결과가 있는 것이라고 생각했습니다. 앞으로 제가 대학을 졸업하고 사회에 나갔을 때, 저도 선배처럼 자신이 성장하는 것에 대해 “끝이 없다” 고 생각할 수 있는 회사에서 일하고 싶다고 생각하게 되었습니다.

今回の「Zoom ひろば!」では、今後の大学生活と卒業後の仕事に関するすばらしい助言をいただき、とてもいい勉強になりました。卒業までの時間をより有効に使うため、これから目標をしっかり立てて、達成しながら少しずつ社会に出る準備をしていこうと思います。

.....

이번 「Zoom 히로바!」 에서 앞으로의 대학생활과 졸업 후의 일에 대해 좋은 조언을 들을 수 있어서 좋은 공부가 되었습니다. 졸업 전까지의 시간을 더욱 유용하게 쓰기위해 목표를 확실히 세우고 달성해 나가며 조금씩 사회에 나갈 준비를 해가고자 합니다.

担当者：呉 宙玠

Zoom ひろば!アフターコロナの旅行業界はどうなる?

Zoom 히로바! 코로나 이후의 관광업계는 어떻게 될까?



はじめに

GC 学部の学生はコースを問わず全員が留学に行きます。留学は単純に言語を学ぶだけではなく、各々違う背景で育った人々との交流を通して自分を成長させることができるとも大事な機会といえます。このようなことから、卒業後、観光業界で働きたいと思う GC 学部生が多くいるのですが、私もその一人なので、須藤先生の企画であり、「旅行」がテーマとなっていた、2020年10月3日の「Zoom ひろば!」に参加しました。

今回の「Zoom ひろば!」では、観光業界に長い間携わっていらっしゃる宮本さんをお招きしました。宮本さんは観光業界に関する知識が豊かなのはもちろん、「ロシアの日本語ガイドを応援する会」の代表を務めておられるほどロシアについて詳しい方です。そこで、「ロシアといえば」というテーマをはじめとして、これからの観光業界の見通しに関する様々なお話をさせていただきました。

글을 시작하며

GC 학부의 학생이라면 코스를 불문하고 모두 유학을 갑니다. 유학은 단순히 언어를 배우는 것뿐만 아니라 각기 다른 배경에서 자란 사람들 간의 교류를 통해 자신을 성장시킬 수 있는 아주 소중한 기회라고 할 수 있습니다. 이런 점에서, 졸업 후, 관광 업계에서 종사하고 싶어하는 지씨 학부의 학생들이 많은데요, 저도 그 중 한 명이기 때문에, 스도 선생님의 기획이며 '여행' 이 테마인 2020년 10월 3일 'Zoom 히로바' 에 참가했습니다.

이번 'Zoom 히로바' 에서는, 관광업계에 오랫동안 종사하고 계신 미야모토 씨를 초빙했습니다. 미야모토 씨는 관광업계에 대한 지식이 풍부한 것은 물론, '러시아의 일본어 가이드를 응원하는 모임' 의 대표를 맡고 계실 정도로 러시아에 대해서 잘 아시는 분입니다. 그래서 '러시아 하면' 이라는 테마를 시작으로, 앞으로의 관광업계의 전망에 대한 여러가지 이야기를 해 주셨습니다.

ロシアといえば？

皆さんはロシアといえばどのようなイメージをお持ちでしょうか？参加者の間では「熊」、「雪」、「美人」、「マトリョーシカ」、「ウォッカ」などの回答が出てきました。ロシアは遠くて近い国だといわれますが、考えてみれば私たちにとって身近な文化も多いことがわかりました。



러시아 하면 ?

여러분은 러시아 하면 어떤 이미지를 갖고 계신가요? 참가자들 사이에서는 곰, 눈, 미인, 마트료시카, 보드카 등의 답변이 나왔습니다. 러시아는 멀고도 가까운 나라라고 하지만, 생각해 보면 우리에게 익숙한 러시아 문화가 많다는 것을 알았습니다.

観光業界の見通しについて

コロナの影響で観光業界が大きな被害を受けているのは周知のことだと思います。このような状況は観光業に携わっている方々にとって大きな問題ですが、この業界に興味を持つ学生にとっても同様です。果たして観光が以前のように復活するのかについてお聞きした結果、お答は「形を変えながらも復活する」でした。人間が社会の中で生きていく限り、どこかに旅行したい欲求は失われるものではないというのがその理由です。コロナの影響でそれまで意識していなかった「対面のありがたみ」をみんな感じているはずなので、旅はなくなるしないし、それは必ず戻るという予想を示されました。



관광업계의 전망에 대해

코로나의 영향으로 관광업계가 큰 피해를 입고 있는 것은 알고 계실 것이라고 생각합니다. 이러한 상황은 관광업계에 종사하고 계신 분들에게도 큰 문제지만 관광업계에 관심을 갖고 있는 학생들에게도 마찬가지입니다. 과연 관광 업계가 예전처럼 부활 할 것인지에 대해 여쭙 본 대답은 '모습을 바꿔서 라도 부활한다' 였습니다. 인간이 사회 속에서 살아가는 한, 어딘가로 이동하고 싶은 욕구는 없어지지 않는다는 것이 그 이유입니다. 코로나의 영향으로 그때까지 의식하지 않았던 '대면의 감사함' 을 모두 느끼고 있을 것이기 때문에 여행은 없어지지 않고, 그것은 반드시 돌아올 것이라는 예상을 제시하셨습니다.



おわりに

今回の Zoom ひろば! に参加してもっとも印象に残った内容は「観光は形を変えながらも復活する」という言葉でした。少しずれた話かもしれませんが、今年流行した「ダルゴナコーヒー」を知っていますか? コロナウイルスの感染予防として外出自粛の時期に流行したもので、電気ミキサーを使わずに泡立てて作ることが特徴のコーヒーです。私はこれを知って「人はどんな状況の中でも遊びを見つけるものだ」と考えましたが、観光も同様だと思います。コロナの影響でみんな大変な時期ですが、人との距離を保ちながら、この難局を乗り越えていきましょう!



글을 마치며

이번 Zoom 히로바! 에 참가해서 가장 인상 깊었던 내용은 ‘관광은 모습을 바꿔서라도 부활할 것이다’ 라는 말이었습니다. 조금 벗어난 이야기 일지도 모르지만, 올해 유행한 ‘달고나 커피’ 를 아시나요? 코로나 감염예방으로 외출 자숙 시기에 유행한 것으로, 전기 믹서를 사용하지 않고 거품을 내서 만드는 것이 특징인 커피입니다. 저는 이를 알고 ‘사람은 어떤 상황 속에서도 놀이를 찾는 존재다’ 라고 생각했는데, 관광도 마찬가지라고 생각합니다. 코로나의 영향으로 모두 힘든 시기이지만, 사람과의 거리를 유지하며, 이 난국을 극복해 나갑시다!



担当者：金 娜馨

GC 学部1年生交流会：

GC 学部全コースの1年生が集まって親しく気楽に話し合う機会を！

GC 학부1학년교류회：

GC 학부 전 코스의 1학년이 모여서 즐겁고 편하게 이야기하는 기회！

11月21日(土)に「GC 学部1年生交流会」を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で自由に会うことができない状況ですが、交流会を通じて親しく話し合おうと企画されたものです。交流会ではコロナに大きな影響を受けた留学に関する話題、また、日頃の授業に関する悩み、さらに「GC 学部に入って良かった点」などについて話しました。

.....

11월 21일 토요일 「GC 학부1학년교류회」를 실시하였습니다. 코로나바이러스 감염 확대의 영향으로 자유롭게 만날 수 없는 상황이지만, 교류회를 통해 편하게 이야기를 나눠보고자 기획하였습니다. 교류회에서는 코로나바이러스로 인해 큰 영향을 받은 유학에 대한 이야기, 평소 수업에 대한 고민, 그리고 「GC 학부에 입학하여 좋았던 점」에 대해 이야기를 나누었습니다.

1. 留学に対する期待感や悩み

最初のテーマは「留学に対する期待感や悩み」でした。GC 学部の全学生はそれぞれの言語圏の国に行って留学の機会を持ちますので「留学」は全学生共通の関心事です。今回の交流会では留学に対する期待感や悩みについて話し合い、意見交換する時間を持ちました。最も大きな悩みはやはり新型コロナウイルス感染拡大でした。せっかくの留学なのに、新型コロナウイルスによって自由に勉強できないことが残念だと多くの人が話していました。

.....

1. 유학에 대한 기대감이나 고민

첫 번째 이야기 주제는 「유학에 대한 기대감이나 고민」이었습니다. GC 학부의 전 학생은 각자의 언어권의 나라에 가서 유학의 기회를 갖기 때문에 「유학」은 모든 학생들의 공통된 관심사입니다. 이번 교류회에서는 유학에 대한 기대감과 고민에 대해서 서로 이야기하고, 의견을 교환하는 시간을 가졌습니다. 가장 큰 고민은 역시 코로나바이러스였습니다. 모처럼의 유학인데 코로나바이러스로 인해 자유롭게 공부할 수 없다는 점이 안타깝다고 많은 학생들이 이야기했습니다.

GC学部留学

：英語コース

：中国語コース

：日本語コース



2. 授業についての悩み

次に、日頃の授業に関する悩みについて話し合いました。今、同志社大学の全学生は新型コロナウイルスの影響で対面授業だけでなく、多くのオンライン授業を受けています。オンライン授業は、どこでも授業を受けられるという利点がありますが、授業前や授業後に友達とおしゃべりをするのが難しく、短所もあります。こうした中で感じている悩みについて話しました。このテーマでは授業について多くの共感できる話を聞くことができ、また *Cosmos* に関わっている2年生と3年生の先輩たちからアドバイスをもらうことができました。



2. 수업에 대한 고민

다음으로, 수업에 관련된 고민에 대해 이야기했습니다. 현재, 도시샤 대학의 모든 학생은 코로나바이러스의 영향으로 대면 수업뿐만 아니라 온라인 수업도 하고 있습니다. 온라인 수업은 어디서든 수업을 들을 수 있다는 이점이 있지만, 수업 시작 전과 후에 친구들과 잡담을 하는 것이 어렵다는 단점도 있습니다. 그리고 이 과정에서 느끼고 있는 고민에 대해 이야기를 나눴습니다. 이 테마에서는 수업에 대해 공감되는 이야기를 많이 들을 수 있었으며 더욱이는 *Cosmos* 의 2학년, 3학년 선배님들로부터 조언을 받을 수 있었습니다.

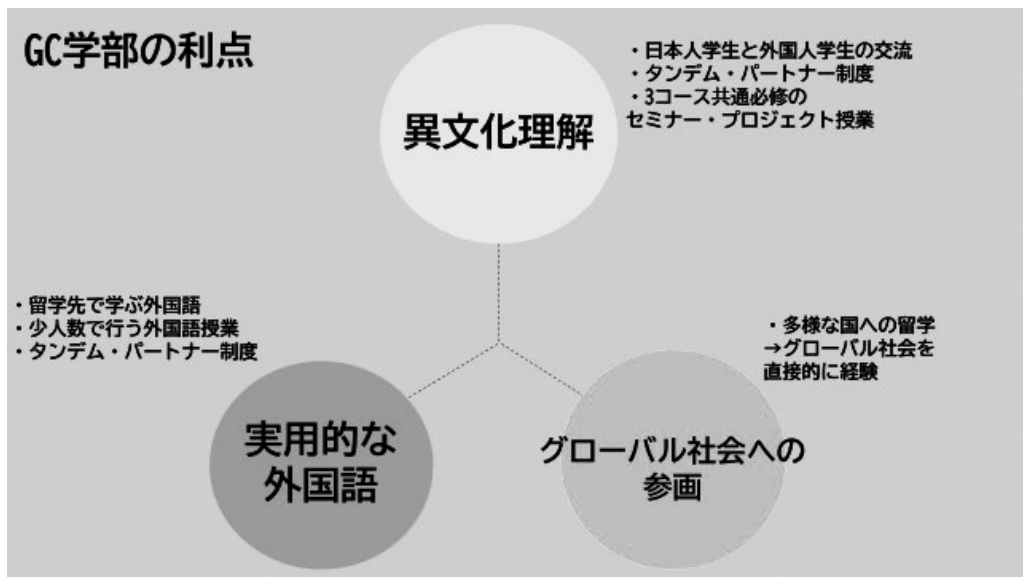
3. GC 学部に入って良かった点

最後に GC 学部に入って良かった点について話しました。GC 学部 to 特有の利点に加えて、GC 学部で学んだことを将来どのように生かすことができるかについても話し合いました。また、コロナの影響でまだキャンパスでの学習を経験していない1年生は、2、3年生の先輩たちから GC 学部について色々聞くことができました。先輩たちの話を通じて、1年生はもう一度大学生活に対する期待感を持つことができたと思います。



3. GC 학부에 입학하여 좋았던 점

마지막으로 GC 학부에 입학하여 좋았던 점에 대해 이야기를 나눴습니다. GC 학부만의 특유의 이점과 GC 학부에서 배운 것을 장래에 어떻게 살릴 수 있을지에 대해서도 이야기해 보았습니다. 또한, 코로나로 인해 아직 제대로 된 캠퍼스 생활을 해본 적이 없는 1학년들은 2, 3학년 선배들로부터 GC 학부에 대해 많은 것들을 들을 수 있었습니다. 선배들의 이야기를 통해 1학년들은 다시 한번 대학 생활에 대한 기대감을 품을 수 있는 시간이 되었습니다.



これら3つのテーマについて話した後、今回の交流会に関する感想と満足度を聞くアンケート調査を実施し、お互いの考えを交換する時間を持ちました。アンケートにより、今回の交流会にほとんどの学生が満足していることがわかりました。また、「一番良かったテーマは何ですか」という質問に対しては「授業における悩み」と「GC 学部に入って良かった点」という2つのテーマを挙げる意見が多くみられました。その理由として、「先輩方からアドバイスや有益な情報を得ることができた」、「今、私の悩みが自分だけの問題ではないと感じ、不安がなくなった」という声が聞かれました。最後に、全体的な感想については、「先輩たちから有益な情報を得ることができて良かった」、「私たちが感じている悩みを互いに交換することができて良かった」、「日本人と外国人の学生がコミュニケーションする GC 学部の利点を生かした活動だと思う」といった感想がありました。機会があれば、次はオンラインではなく、直接会って話す交流会を実施できればと思います。



이 세 가지 테마에 대해서 이야기한 후, 이번 교류회에 대한 감상과 만족도 등을 묻는 앙케이트 조사를 하고, 서로의 생각을 교환하는 시간을 가졌습니다. 앙케이트를 통해 이번 교류회에 대부분의 학생이 만족하고 있다는 것을 알 수 있었습니다. 또한, 「가장 좋았던 테마는 무엇인가」라는 질문에 대해서는 「수업에 있어서의 고민」과 「GC 학부에 입학하여 좋았던 점」이 두 가지의 테마가 좋았다는 의견이 많았습니다. 그 이유로는, 「선배들로부터 조언과 유익한 정보를 얻을 수 있었다」, 「지금 내 고민이 나 자신만의 고민이 아니라는 것을 느꼈고 불안감이 해소되었다」라는 의견이 있었습니다. 마지막으로 전체적인 감상에 대해서는 「선배들로부터 유익한 정보를 얻을 수 있어서 좋았다」, 「내가 지금 느끼고 있는 고민을 서로 교환할 수 있어서 좋았다」, 「일본인과 외국인 학생이 커뮤니케이션하는 GC 학부만의 이점을 잘 살린 활동이라고 생각한다」라는 감상이 있었습니다. 기회가 된다면 다음에는 온라인이 아닌 직접 만나서 이야기하는 교류회를 열고 싶다고 생각합니다.



2020年度卒業研究テーマ

—英語コース—

Advanced Seminar 2-① (担当 松本啓子)

藤井ひなた	Wine Tourism in Yamanashi
具志堅みずほ	Dark Tourism in Okinawa
東本摩耶	Urban Tourism Full of Stories: A Case of Kobe
岩井ひろ香	Authenticity of Kanazawa Tourism
小山怜華	New Gazes of Amanohashidate Tourism
儘田美穂	The Tourism of Kochi Yosakoi Festival
増田帆香	The Story Behind the Paradise: Contested Island Guam
松本ひかる	Kyoto Uzumasa Studio Park: Diverse Tourists' Expectations
三澤真喜子	Art Tourism in Setouchi
宮藤美穂	Uniqueness of Green Tourism: How Is It Different from Other Forms of Tourism?
大江美羽	Airports as Tourism Resources
芝 菜々美	Uniqueness of Food Stalls in Hakata Tourism
寺西由美子	Sake Tourism: The Performance of Sake Breweries
辻野奈海	Performed Authenticity of Mekong River Tourism
山田 歩	Sustainable Tourism of Hanamikoji
太田志穂子	Narrative in Backpacker Tourism

Advanced Seminar 2-② (担当 玉井史絵)

羽田ゆり花	Documentary as a Skillful Storyteller: Analysis on Strategic Use of Entertainment in The Cove
山崎 睦	Eurocentric Foreign Aids Seen in The Boy Who Harnessed the Wind
福田美知留	A Heavyweight Girl Turned into Beauty: A Study of Hairspray
原田静佳	The Meaning of Revolution in Les Misérable
早水華歩	Food as a Communication Tool in Chef
葛城真奈	The Representation of Magic in Harry Potter Series
小林梨乃	What If Paddington Does Not Speak English? : A Study of Paddington
口井あやめ	The Representation of Muslim Culture and Woman in Aladdin
大城未紘	Twentieth-Century Women Do Not Represent All the Women at That Time
佐々木茉優	The New Concept of Family in the Novel Series Momo-chan and Akane-chan
清水知世	The Women's Empowerment and the Change of Depiction of Women in Sailor Moon
篠崎桃子	The Formation of the Image of a New Cute Type of Witch in Kiki's Delivery Service
山田千尋	Osamu Tezuka's View of Life in A Tale of the Future in Phoenix
山下菜摘美	The Changing Ideal of Women from the 1980's to 2020 Performed by Seiko Matsuda

Advanced Seminar 2-③ (担当 寺西隆弘)

- | | |
|------|---|
| 江崎航平 | A Contrastive Study of Phonetic and Phonological Features between Kyokotoba (Kyoto dialect) and RP in England |
| 近藤沙紀 | A Contrastive Analysis between Japanese and English: Metaphorical Expressions Based on The Body Part “ <i>Te</i> ” (Hand) |
| 杉村和也 | Linguistic Relativity in The Theory of Metaphorical Understanding: Space-time Metaphor in Haruki Murakami’s Fiction |

Advanced Seminar 2-④ (担当 EDWARD OGLE HEARN)

- | | |
|-------|---|
| 辻 歌織 | Groupthink Theory and Japanese Decision for War |
| 松本紗英 | The Cooperative Resolution in Trade and Environmental Disputes |
| 牧内彩花 | The Long-Term and Short-Term Impact of Mega Sports Events |
| 松坂大雅 | How to Make Innovation in Rural Japan |
| 岡本優花 | Economic Factors Incentivizing Japan to Host the US Military Bases |
| 政田純那 | Integrated Resorts and the Future of Japan: Controversies and Benefits |
| 福元奏美 | The Difficulty of Tourism: Why Japan Struggles to Accommodate Inbound Tourists |
| 森田未咲 | 21st Century Japan: The Impact of Immigration on Japanese Society |
| 石田真梨奈 | Religion in Japan: What Makes the Japanese Non-Religious |
| 三淵雄太 | How Cultural Traits Influence the Result in Bargaining: The Culture Gap and Bargaining Communications |
| 松本珠季 | Gender Inequality in Japan: The Influence of Workplace Culture on Women’s Careers |
| 和泉 樹 | The Impact of Pop Culture on Japanese and Korean Soft Power |
| 久保田晴智 | Japanese Hip Hop Culture and Localization |

Advanced Seminar 2-⑤ (担当 竹田宗継)

小林優太	A Comprehensive Study on New Zealand People's Ideology "Utopianism" and COVID-19
宮浦詩歩	The Key Elements in Cross-cultural Organizational Apologies - Cases of Toyota and McDonald's Japan -
金關彩果	Analysis of the Effect of the Use of LINE Stamps on Human Relations - Realizing the Full Potential of Nonverbal Communication -
玖村祐活	Impact of Digital Shift on Advertising Industry - How TV Advertising and Internet Advertising may Co-exist in the Digital Age -
松浦沙英	Disappearance of Female Language Found in a Japanese Comic Book - Advancement of Gender Neutrality in Japanese Language -
大橋俊紀	Effect of Frequent Online Communications to Keep Morale of Members - Case Study of Leadership Experience in an Online Project -
太田開成	Designing Multimedia for English Education - How Video Quality, Audio Quality and Editing Affect Student Engagement -
大東桃子	Analysis of the Timing of Curiosity Occurrence and Entrepreneurship Development
酒井将之	Analysis of Personality Changes Through the Experience Abroad in Puberty
関村知也	Significance of the Trim Level and Patterns of Trim-Level Naming Strategy - Case of Passenger Automobiles in Japanese Market -
妹尾梨紗子	Comparison of Aizuchi, Back Channel Feedbacks, between Japanese and English Speakers
白坂麗美	Strategic Approach for Career Development for Job-based Employment in Japan
高橋末莉衣	Unique Features of Disney's Employee Education Program for Empowerment and Engagement
谷田陽南乃	The Connection between Instagram and Fashion Buying Behavior

Advanced Seminar 2-⑥ (担当 窪田光男)

姫野明希子	Effect of Emoji on text communication
細川夢乃	Do English-Japanese bilingual people change their nonverbal behaviors depending on language?
井口結香子	Do impressions of speakers' personality change depending on what dialect they speak?
今川裕美佳	Why do women change their way of talking on the phone?
森田駿斗	What are the normal ways to use “普通に (Futuni)” now?
王 泳思	Understanding the relationship between language and cognition in bilingual speakers of Guiyang dialect and Mandarin Chinese
田辺笑夏	Communication styles within Japanese and non-Japanese intermarriage couples
山口雅生	Language and our sense of body: Why do only Japanese people claim Katakori?
山本 大	Which language makes bilingual people feel more comfortable to talk about their personal topics? Japanese and English cases
山本大知	Cultural differences and differences of modal usages and interpretations

Advanced Seminar 2-⑦ (担当 中田賀之)

林 真裕	Relationship between Self-esteem and Makeup Behavior
小林愛奈	Effectiveness of ICT on Language Learning and Motivational Patterns
松倉映里花	Regional Differences in Shopping Motivation
野村日菜子	Differences in Perceptions of Bodies in Men and Women
大山莉沙	Can Self-esteem Have a Positive Correlation with Restriction in Relationships?
吉田 楓	Relationship between Stress and Eating Behaviors

Advanced Seminar 2-⑧ (担当 窪田光男)

阿部 涼	Formation and development of people's personality
秋田純平	Consideration of future improvement of neighboring country relations from the comparison of trade relationships between Japan and South Korea as well as Mexico and the United States
猪狩光央	The future latte art in Japan
伊藤明日花	Smoking behavior and smoking as a way of communication
中野智之	Effects of cultural differences on young married couples
大倉風香	History of cosmetics: Understanding differences in the concept of beauty among countries and eras by analyzing its historical, economic and political construction and development
大森 海	Why are group idols popular in Japan?
澤井 舜	Why did Christianity not extensively spread in Japan?
妹尾もも	Laughter and society: How laughter affects people's daily lives
杉本安美	The real purpose of using Starbucks in Japan
筒井彩華	Health and culture
植本早紀	The Beatles for people in the 21st century: In pursuit of happiness
藪下篤志	How has IT changed human communication?
吉川 茜	Will a basic income be implemented in Japan? An examination from the view of redistribution

－中国語コース－

専門演習 3-① (担当 内田尚孝)

- 野々垣 輝 香港におけるデモ発生の構造的な研究－中港関係の展開と香港社会の変容－
濱 千秋 尖閣諸島問題の研究－尖閣国有化に至る日本政府の政策とメディアの分析を中心に－
石井 薫 「中国製造2025」の研究－産業高度化の推進と米中覇権の行方－
片山桃子 日中国交正常化の研究－中国の「民間」外交を中心に－
川柳 馨 キャッシュレスは日本で成功するか－中国および諸外国の事例から考察する－
小林英美里 中国の企業形態に関する研究－中国企業と内的要素に関する分析を中心に－
村上かな子 歴史教科書問題からみる日中関係－共通歴史教科書実用化の可能性を中心に－
鈴木美桜 中国の脱炭素シフトへ向けたエネルギー戦略に関する研究－中国にとっての最適なエネルギー戦略をめぐって－
上根丈武 香港と台湾における対大陸意識の共鳴とそのプロセスに関する研究
若宮 萌 「慰安婦」問題解決をめぐる研究－真の解決への糸口を考える－
横田歌穂 南京事件の研究－外国人使節団からみた「南京大虐殺事件」－

専門演習 3-② (担当 郭 雲輝)

- 長谷川真子 中国における地名、人名、ブランド名の翻訳について
畠中絵梨 ビジネス場面における敬語表現の日中比較
伊藤涼併 中国語における“動詞”+“個+名詞”構文について
金 慶蘭 日中における婉曲表現の比較
木下祥奈 類縁語と並列語(リンク語)について
小出千祥 中国語の無標受動文の日本語訳について
－正しい翻訳と誤訳との比較を通して－
前田優希 アニメ、漫画から見た日本語からの借用語
織邊 亘 中国語の「分かりました」と「理解している」に関する言葉の比較と分析
大塚有華 日中の笑いを表す擬音語・擬態語における感情表現の比較
田崎千晴 中国と日本におけるネット用語の違い
東島 茜 「助数詞」と「量詞」の特徴、及びそれらの共通点と相違点について

専門演習 3-③ (担当 中西裕樹)

安藤絵美	中国語からみる空手の歴史
原田紗帆	台湾における日本語の受容
日高怜奈	日本語と中国語における人称代名詞の用法の差異について－ドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』を例に－
加藤郁実	中国の新語・流行語の変遷
宮島健太朗	中国語における外国語表記について－外国籍サッカー選手から考察する－
中西華穂	中国の高齢者福祉－高齢化社会から見る介護政策－
佐々木麻帆	3000万の中国人男性が抱える結婚の現状
辻 みなみ	アメリカにおける中国語教育と日本と英語圏の孔子学院の比較
山本萌乃佳	曲の歌詞から見る日中間における人称代名詞の特徴
山内綾乃	シンガポール1966年から2004年の二言語制作－華語の衰退と英語の台頭－
吉井晴香	日本語と中国との表現の違いについて－「名探偵コナン」の翻訳を例に－
宮本有彩	日中間における新聞の報道比較－日本の尖閣諸島国有化に関する記事を中心に－

専門演習 3-④ (担当 張 文菁)

門 わかな	訪日中国人の消費動向から考える——80後・90後世代へ向けたインバンド観光について
北川日菜	日本における出前代行サービスと新型コロナウイルスの流行
池内 萌	擂茶の変遷と台三線
佐伯真生	映画から見る台湾社会におけるLGBT表象——『誰先愛上他的』（2018）を例に
井戸絢子	映画『過春天』（2018）からみる越境通学児童と水客
濱口杏里	戸籍制度改革で中国都市部と農村部の経済格差問題は解決しうるのか
高橋菜央	習近平が目指す「中国の夢」
杉浦亜美	中国卓球はなぜ強いのか
山田遙香	映画『2046』（2004）から見る香港人アイデンティティ
姜 尚潤	香港が何故戦っているのかに関する研究
柴田奈緒	中国現代社会の高齢化介護問題——ドラマ『都挺好』を例に——

—日本語コース—

専門演習 2-① (担当 脇田里子)

黄 智映 (ファン ジョン)

日韓の言語・非言語から見る不満表明の対象研究

崔 嘉楹 (チェ ガヨン)

日韓の少子化対策に関する研究

専門演習 2-② (担当 須藤 潤)

白 舒詠 (ベク ソヨン)

日本語学習者に見られない、日本語母語話者の配慮の表現に関する一考察

明 性周 (ミョン ソンジュ)

ソウル出身日本語学習者とキョンサンド出身日本語学習者の日本語の単語のアクセント特徴

NG YASMEEN (エン ヤスミン)

接触場面におけるコミュニケーション・ストラテジーの後の話題転換について—インドネシア人日本語学習者の場合—

王 靖雯 (オウ セイブン)

アニメ『犬夜叉』における男性キャラクターが使用する文末表現「だろう」をめぐって—新たな文末ツンデレ表現の可能性を検討する—

趙 允 (チョウ イン)

日本に留学する外国人が使用する日本語の一人称の特徴—ドラマ「半沢直樹」の男性キャラクターが職場で使った「僕」「俺」「私」の対比から—

専門演習 2-③ (担当 鈴木伸子)

姜 昇希 (カン スンヒ)

現代韓国社会におけるフェミニズム—韓国の若者のアンケート調査及び今後韓国のフェミニズムの方向性について—

張 彩隣 (ジャン チェリン)

日本のバラエティー番組における性差別的発言の比較分析

胡 成媛 (コ セイエン)

華道における日本の美意識の変化に関する考察—時代とともに変化した花型を手掛かりに—

夏 廷輝 (カ テイキ)

織田信長一生の歩み—人生五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなり—

趙 薇帆 (チョウ ビハン)

90年代及び現代中国人留学生における留学目的と進路に対する認識の比較

林 和燮 (リム ファソップ)

日本における多国籍宗教コミュニティの形成過程とその影響に関する研究—多文化教会を中心に—

2020 年度 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会講演会開催記録

第一回講演会

日 時：2020 年 10 月 19 日（月）2 講時

会 場：TC1-108 教室

題 目：「有事にこそ力を発揮する DMO－台風 19 号とコロナを乗り越える観光地箱根の作戦は？」

講演者：佐藤 守氏（さとう・まもる／箱根 DMO 一般財団法人箱根町観光協会 専務理事）

日本の観光立国戦略の中で誕生した DMO（Destination Management Organization）とは、どのような背景で、何を目的に誕生した組織なのかというご説明の後、昨年の台風 19 号や今年のコロナ禍においてどのようにこの組織が活躍したのかをご講義いただいた。日本の今後の観光戦略について考える貴重な時間となった。当日は、教室の参加者に zoom を経由した参加者も加え、合計 30 名以上が熱心に耳を傾けた。

第二回講演会

日 時：2020 年 11 月 6 日（金）2 講時

会 場：TC1-108 教室

題 目：「コロナで見えたウェディングビジネスの本質－オンラインと対面の狭間で見てきたもの」

講演者：山西 礼子（やまにし・れいこ／株式会社ディアーズ・ブレイン 東日本ウェディング事業部長 兼 マーケティング部長）

今年、コロナウイルスの影響を受けたウェディングビジネスだが、そもそも、ウェディングビジネスとはどのような歴史的背景のもとに誕生して発展し、今後はどのような顧客のニーズが浮上しつつあるのかをお話いただき、時代や家族の変化とともに歩むこのビジネスの特質を如実に感じた。当日は、教室及び zoom の参加者を加えて、18 名が参加した。

第三回講演会

日 時：2020 年 12 月 14 日（月）3 講時

会 場：KD-204 教室

題 目：「マーケティングの基礎－具体的事例から学ぶ」

講演者：久保田 万美（くぼ・まみ／株式会社シンプリイズベスト 代表取締役 / 株式会社 F 共同創業者・取締役）

大手企業でさまざまな商品のマーケティングを企画・実施するトップマーケターが、どんな思考・着眼点を持ち、どのようなプロセスでビジネスをつくっていくのかを、講演者が過去に手がけた事例をもとに、マーケティングの基礎についてお話いただいた。当日は、教室及び zoom の参加者を加えて、25 名が参加した。

あとがき

新型コロナウイルス感染症は全世界を揺るがすほどに広がり、数多くの生命を奪っただけでなく、社会的・経済的問題を引き起こしました。コロナの拡散により、多くの人々が職を失ったり、暮らしを脅かされたり、マスクをしないと変な人として思われたりするなど、私たちの日常生活に大きな変化が起きています。また、無差別に地域・人種嫌悪をあおる言葉が殺到し、社会的に最も脆弱な人々が隔離によって被害を受けるこの社会の裏面を見せたりもしました。

現在、全ての分野はコロナウイルスの前後でわかれると言われるほど、新しい局面を迎えています。人と人が直接会う対面中心のネットワーク方式をオンラインで変えなければならないという必要性が増し、教育、仕事場、医療分野などでも対面転換を図っています。もはや、コロナ以前の日常には戻れないので、新しい基準を作らなければならない状況で、テレビ会議、テレワークなどの技術に適応しなければならない課題が生じました。

このような社会変化の中で私たち *Cosmos* 編集委員会は、コロナによる被害、現況を取り上げるよりも、コロナによる困難の中でも様々な活動をしようと努力してきました。今年初めて、*Cosmos* の全ての作業が非対面で行われた分、きちんとしたコミュニケーションができるのか不安が大きかったのですが、対面で交流することへの感謝の気持ち、今まで知らなかった非対面のメリットなどを見つけることができました。そして、コロナウイルスで最善の代案を模索する過程を通じて、全ての問題の解決はコミュニケーションから始まるということをあらためて思い知らされました。みんなが大変な時期ではありますが、各自感染予防の原則を守り、普段どおりの日常を続けてほしいと願っています。最後に、第 10 号 *Cosmos* の編集委員の方々、そしてすべてのことに助けてくださった GC 学部の先生方、事務室の方々にも感謝いたします。

Cosmos 第 10 号編集委員 金 娜馨

2020 年度 *Cosmos* 編集委員会

英語コース	3 年生	津田 愛華
	2 年生	降幡 千江里、高司 空
日本語コース	3 年生	尹 智敏
	2 年生	金 娜馨、呉 宙弦、宋 玆抒、宋 抒娟
	1 年生	許 丞延、姜 東龍、高 允珍、李 彩榮

グローバル・コミュニケーション学会

運営編集委員会・役員会

鈴木 伸子、長谷部 陽一郎、吉田 優子、松木 啓子、山本 妙、伊勢 晃

Cosmos 第 10 号

2021年3月15日発行

発行 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1 - 3

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部内

Tel (0774) 65-7491 Fax (0774) 65-7069

編集 2020年度 *Cosmos* 編集委員会

グローバル・コミュニケーション学会 運営編集委員会

印刷 株式会社あおぞら印刷

〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15

